

埼玉病薬

Vol.31 No.2 2024

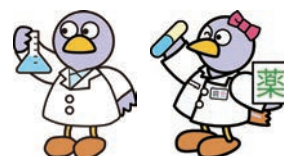


社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院



一般社団法人

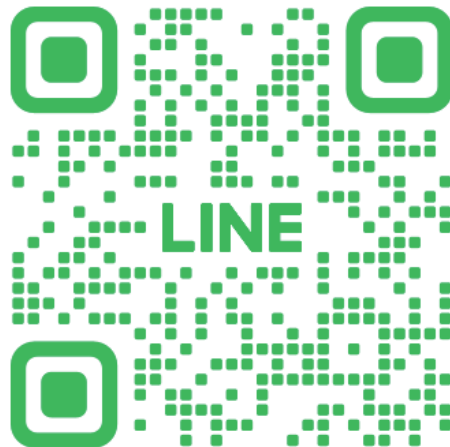
埼玉県病院薬剤師会





埼玉県病院薬剤師会 公式LINEアカウント

埼玉県病院薬剤師会、公式LINEアカウントを立ち上げました。研修会情報や関ブロに関するお知らせを配信中しています。
是非ご登録ください。



広報のご依頼も受け付けております。

広報委員会メールアドレス：
saibyoyaku.kouhou@outlook.jp

日本病院薬剤師会 関東ブロック 第54回学術大会 in Saitama



さまざまな分野で活躍する薬剤師



©さいたま観光国際協会

2024
8月 10日^土・11日^日

場所 ソニックシティ
パレスホテル大宮

開催形式 ハイブリッド開催
現地開催 ⊕ オンデマンド配信

<https://www.saitama-kanblo54.org/>
オンデマンド配信 / 2024年9月予定

【大会長】町田 充（埼玉県病院薬剤師会 会長 / さいたま赤十字病院 薬剤師部長）

【主催】日本病院薬剤師会関東ブロック 【担当】一般社団法人埼玉県病院薬剤師会



大会長挨拶



大会長 町田 充
一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会 会長
さいたま赤十字病院 薬剤部長

謹啓

時下、貴社におかれましては益々ご清栄の段お喜び申し上げます。平素は本会の事業に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、日本病院薬剤師会関東ブロック第54回学術大会を、一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会が担当し、2024年8月10日（土）、11日（日）の2日間にわたってソニックシティ・パレスホテル大宮に於いて開催することとなりました。

日本病院薬剤師会では全国規模の学術大会を開催せず、ブロック単位の学術大会を開催しており、本学術大会は関東・甲信越地区1都9県（関東ブロック）の病院薬剤師会が持ち回りで開催しており、病院・診療所等に勤務する病院薬剤師を中心に医療薬学をはじめとする薬剤師の各種業務の発展、そして倫理的・学術的水準を高めることを目的として、1971年の第1回開催以来、毎年開催しております。埼玉県ではこれまでに本学術大会を7回開催しており、前回の2014年には約3,600人の参加者を迎えて開催いたしました。

今回は、学術大会の現地開催によるメリットと、新型コロナウイルス感染症の流行を受けて急速に広まったWEB形式での受講スタイルのメリットを両立できる方法として、ハイブリッド形式（現地開催+後日オンデマンド配信）での開催を予定しており、現地参加者2,500人以上を含め、3,500人以上の参加者を見込んでおります。

さて、昨今は少子高齢化が進み、病院薬剤師の慢性的な人員不足が問題となる一方で、IT技術の目覚ましい発展により、薬剤師の業務はより安心・安全な医療の提供に向け、医師の処方支援などを通じて、薬物治療にこれまで以上に臨床的に深く介入するようになり、専門的な知識や経験を習得した薬剤師を中心に、さまざまな分野において専門医らと協働して薬物治療にあたるようになってまいりました。

そこで、本学術大会のテーマは『彩～IRODORI～』といたしました。「彩の国」埼玉県から「さまざまな分野で活躍する薬剤師」を発信する機会としたいとの願いであります。

多くの皆さまの参加を心からお待ち申し上げます。

謹白

2023年11月吉日

日本病院薬剤師会関東ブロック第54回学術大会

大会長 町田 充（一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会 会長 / さいたま赤十字病院 薬剤部長）

実行委員長 近藤 正巳（一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会 副会長 / 埼玉医科大学総合医療センター 薬剤部長）

参加登録

本大会は、学会会期期間中に会場現地で参加する「現地参加」と、現地開催の様相を録画した映像を後日インターネットで視聴する「後日オンデマンド視聴」のハイブリッド形式となります。ただし、現地参加にてご参加いただける人数に制限を設けております。人数制限に達した場合は、現地参加の受付を終了いたします。予めご了承ください。

- **事前登録（第1次：3/11～7/8）**

「現地参加+後日オンデマンド視聴」と「後日オンデマンド視聴のみ」を選択できます。締め切り日以降に、後日オンデマンド視聴のみの参加を希望する場合は、第3次登録（8/19～後日オンデマンド配信終了日）にて参加登録してください。

- **直前・当日登録（第2次：7/9～8/11）**

「現地参加+後日オンデマンド視聴」のみの受付となります。なお、学会会場での当日受付による参加申込は行いません。当日参加の場合でも、本ホームページからのオンライン申込と参加費のクレジットによる支払いが必要です。（懇親会の当日申込は除く）

- **懇親会（鉄道博物館）**

事前登録で「後日オンデマンド視聴のみ」を選択した場合でもお申込みいただけます。なお、懇親会は事前登録を原則としますが、参加人数に余裕がある場合は、直前・当日登録の受付を行います。懇親会の当日受付を行う場合はホームページなどでご案内します。

登録期間 事前参加登録（第1次）：2024年3月11日（月）9時～7月8日（月）

参加費

	会員※1	非会員	学生※2
事前登録（第1次） 3/11（月）～7/8（月）	9,000円	10,000円	1,000円
直前・当日登録（第2次）※3 7/9（火）～8/11（日）	12,000円	13,000円	1,000円
第3次登録 8/19（月）～オンデマンド配信終了日	9,000円	10,000円	1,000円

会場参加には定員がございます。定員に達し次第、オンデマンド配信視聴のみの受付となります。

- ※1 会員とは日本病院薬剤師会の会員をさします。
- ※2 学生とは大学院生を含みますが、社会人学生・通信制学生は除きます。学生の方は学生証のコピーの提出が必要です。オンライン登録後、（1）氏名、（2）ご所属、（3）参加登録受付番号 を明記の上、学生証のコピーをE-mail添付にて下記「登録事務局」までお送りください。
登録事務局 E-mail：kanblo54@saitama-kanblo54.org
- ※3 事前参加登録（第1次）にて会場参加の定員に達した場合、当日の会場参加受付は行いません。なお、当日の会場参加受付もオンラインによる参加登録となりますので、ご注意ください。



The 57th JPA Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Science in Saitama

第57回日本薬剤師会学術大会

2024.9.22(日)-23(月・祝)

大宮ソニックシティ／さいたまスーパーアリーナ パレスホテル大宮



主催 公益社団法人 日本薬剤師会／一般社団法人 埼玉県薬剤師会
大会運営委員長 斉藤 祐次 一般社団法人 埼玉県薬剤師会 会長

事務局
一般社団法人 埼玉県薬剤師会
〒330-0062 埼玉県さいたま市浦和区仲町3-5-1
埼玉県県民健康センター4階
TEL: 048-827-0060(代) FAX: 048-827-0063

運営事務局
株式会社コンベンションリンケージ内
〒102-0075 東京都千代田区三番町2
TEL: 03-3263-8688 FAX: 03-3263-8693
E-mail: jpa57@c-linkage.co.jp



彩の国 埼玉県
Saitama Prefecture



大会ホームページ



LINE



Twitter (X)

<https://www.c-linkage.co.jp/jpa57/>

目 次

【巻頭言】

「病院薬剤師を目指す方が増える」という夢を叶えるために

埼玉県病院薬剤師会 理事 新井 亘…………… 1

【会員のひろば】

<学会報告>

第 33 回日本医療薬学会年会に参加して

医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院 薬剤部 新井 亘…… 3

第 33 回 日本医療薬学会年会報告

IMS (イムス) グループ

イムス三芳総合病院 薬剤部 大木 稔也…………… 10

第 33 回日本医療薬学会年会に参加して

埼玉医科大学病院 薬剤部 横田 敬之…………… 14

第 33 回 日本医療薬学会に参加して

新座病院 薬剤科 安藤 正純…………… 16

<医療の質・安全部会から>

調剤過誤事故発生時の対応

埼玉県病院薬剤師会 医療の質・安全委員会

新都市医療研究会 [関越] 会 関越病院 鈴木 俊久…………… 18

【薬局業務紹介】

社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院 薬剤部の業務紹介

社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院 薬剤部 大木 孝夫… 20

【寄贈会誌】…………… 25

【会のうごき】…………… 26

【理事会開催報告】…………… 29

令和 5 年度第 4 回理事会議事録 (2023/10/27)

令和 5 年度第 5 回理事会議事録 (2023/12/19)

【委員会開催報告】…………… 37

第 2 回総務委員会議事録 (11/29)

第 5 ～ 7 回広報委員会議事録 (9/1、10/2、10/13)

第 3 回薬事運営会議議事録 (11/10)

第 2 回災害・救急委員会議事録 (9/6)

- 第 54 回関ブロプログラム委員会議事録 (9/27)
- 第 54 回関ブロ第 3 ～ 4 回実行委員会議事録 (9/12、11/7)
- 第 54 回関ブロ第 8 ～ 10 回準備実行委員会議事録 (10/3、10/20、11/14)

【生涯研修センター報告】	58
第 74 ～ 75 回評価委員会議事録 (9/26、11/21)	
第 19 回感染制御領域研修部会議事録 (9/22)	
第 27 回糖尿病領域研修部会議事録 (11/29)	
第 39 回精神科領域研修部会議事録 (9/7)	
第 36 ～ 38 回医療の質・安全領域委員会議事録 (5/25、7/20、11/15)	
【事務局だより】	74
【お知らせ】	75
【原稿募集】	77
【編集後記】	78

「病院薬剤師を目指す方が増える」という夢を叶えるために

埼玉県病院薬剤師会 理事
医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院
新井 亘

埼玉県病院薬剤師会では、2023年に新たに5つの委員会が立ち上げられ、その1つにインシデント・アクシデント委員会（以下、当委員会）があり、その担当理事を仰せつかっております。

さて、2024年もそろそろ折り返す頃です。皆様ご存じの通り、2024年の年明けは、能登半島地震と航空機同士の衝突事故が発生し、波乱の幕開けでした。そのような中で、2024年の日本病院薬剤師会関東ブロック第54回学術大会（以下、本学会）は埼玉県が担当県として開催されることになり、準備が進められています。学会のメインタイトルは「彩 IRODORI」。さまざまな分野で活躍する薬剤師の業務を発信する機会としたいという願いが込められていると伺っています。それに沿って当委員会では、2つのシンポジウムと1つの特別講演を担当し、医療安全を多角的に学ぶ場を設けました。

① シンポジウム 医師から薬剤師へ、薬剤師から非薬剤師へのタスク・シフト/シェア ～安全に法に触れずに行うために～（仮題）

医師等から薬剤師へのタスク・シフト/シェアや、薬剤師から非薬剤師へのタスク・シフト/シェアにおいては、薬剤師ないしは非薬剤師が実施可能な業務が明確化されています。これまでグレーゾーンとされてきた業務範囲が明確になったところではありますが、解釈によって法に触れている可能性があること知らずに実施していることが懸念されています。

そこで本シンポジウムでは、弁護士や医療安全管理者からの見解も交えたディスカッションを通して、病院薬剤師として本来の役割を再認識することによって、安全に且つ働き甲斐を高める機会になるようなシンポジウムを企画しています。

② シンポジウム 患者安全推進のために薬剤師に求められるノン・テクニカルスキルとは（仮題）

日本医療機能評価機構の年報によると薬剤師事故は全体の41.4%を占めており、更に発生要因をみると「知識不足」「技術・手技が未熟」といったテクニカルスキルによるものは少なく、「確認を怠った」「観察を怠った」「連携ができていなかった」などといった、いわゆるノン・テクニカルスキルに起因するものが上位を占めています。

薬剤師には、求められる専門の知識や技能があります。しかし、それがどんなに高くても患者さんや多職種の満足度が上がらなかつたり、成果に結び付かないことがあります。薬剤師の伝える力の不足によって、誤解を招いたり、命を疎かにする結果に繋がることもあるかもしれません。

なぜなら、医療活動の多くは、無形であり、提供する側（薬剤師）と受け手（患者さんや他職種等）との接点、つまり「真実の瞬間」で価値が決まるためです。医療は人が人にさせて頂く仕事であり、人と人を結びつけるには、会話と相手を認める心が大切です。

仕事の価値を決める「真実の瞬間」。その瞬間を決めるのが、ノン・テクニカルスキルです。これからの患者安全推進のために医師、薬剤師、看護師、航空評論家（元機長）の多職種で薬剤師に

求められるノン・テクニカルスキルとは何かを考える機会になるようなシンポジウムを企画していません。

③特別講演

人間は必ずミスをおかす生き物であり、ヒューマンエラーは決して避けられません。この度、現代コミュニケーション学科教授の先生をお招きします。先生の研究テーマは、ヒューマンエラー・産業安全・労働災害防止・事故の原因分析・サイエンスコミュニケーションです。一方、医療機能評価機構の医療事故情報収集事業における専門委員でもいらっしゃる、ヒューマンエラーの効果的防止策について心理学的な観点を交えながらご講演を頂きます。

薬剤師に必要なスペシャリストスキルを高めることは重要ですが、それらに関連する学会への参加や研修会を通じて、自発的に学んでいるかと思われます。医療安全領域の学会や研修会に自らの意思で参加する方も増えているものの、つつい日頃の業務に追われてしまい優先順位が下がってしまう方も少なくないのでしょうか。そこで、「彩 IRODORI」がテーマの本学会を通じて、何か1つでも医療安全に対する学びを得る機会を提供できればと思い、前述の3つを企画しました。猛暑の中での開催が予想されますが、体調管理に努め、多くの方々に参加して頂けることを願っています。

さて、ここからが本題ですが、第8次医療計画を踏まえた薬剤師確保に係る取組について（厚生労働省医薬・生活衛生局）では、特に病院を中心として薬剤師が充実しておらず、不足感が生じていると言われています。

これら3つ企画は「医療安全」からの視点ですが、「病院薬剤師を取り巻く職場環境の整備」の視点に置き換えることも可能です。例えば、本来の病院薬剤師の仕事を認識し働き甲斐を高めるためのタスク・シフト/シェアの実践の先には、薬剤師の業務負担の軽減があります。ノン・テクニカルスキルの向上等の先には、職場内の円滑なコミュニケーションを高めることで、人間関係を理由とした離職防止に繋がる可能性があります。そして、病院薬剤師の前に医療人として、社会人として、人としての基本を養うヒューマンスキルの先には、心の生き活きやモチベーションの向上、ストレスに対する対応力を高めることに繋がるかと推察します。

そのような環境整備を常に行いながら、病院薬剤師が患者さんの満足を高め、その過程を通じて病院薬剤師という職業に自分自身も満足する。そのような想いや姿を薬学生に示すことによって、未来の病院薬剤師が増えることを信じて、夢を追い続けています。

第 33 回日本医療薬学会年会に参加して

医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院 薬剤部
新井 亘

1. 学会発表の概要

急性期・回復期・慢性期 28 病院における医薬品の適応外使用の審査状況の報告

【目的】

医療従事者は添付文書に従って医薬品を使用することが原則であるが、添付文書とは異なった適応症や用法・用量での使用（以下、適応外使用）は、実際の医療現場において行われている。特に近年では、新しいエビデンスに関する情報発信に対して添付文書の適応拡大が追いつかず、やむを得ず使用している場合がある。一方、適応外使用の認識が無い場合や、医師の経験から漫然と行われている場合も散見され、安全性が担保されていないという問題点が懸念される。

特定機能病院では医薬品安全管理責任者の責務として、未承認医薬品の使用や適応外使用等に関して、医薬品の使用状況の把握、必要性の検討を目的とした体系的な仕組みの構築、必要な指導と結果の共有が求められている。一般病院においても必要な措置を講ずるよう努めることが明文化された。

今回、上尾中央内科グループ 28 病院（急性期・回復期・慢性期病院）における適応外使用の実態を報告する。

【方法】

適応外使用の審査委員会の設置の有無、審査を行った薬品名と適応外使用の目的、ガイドラインの記載の有無を調査した。急性期病床数が 400 床以上を A 群、200 床以上 400 床未満を B 群、200 床未満を C 群、慢性期または回復期病院を D 群に区分し、28 病院の医薬品安全管理責任者によって分析した。

表1 A群の病院での適応外使用の申請から審査・承認までの流れ

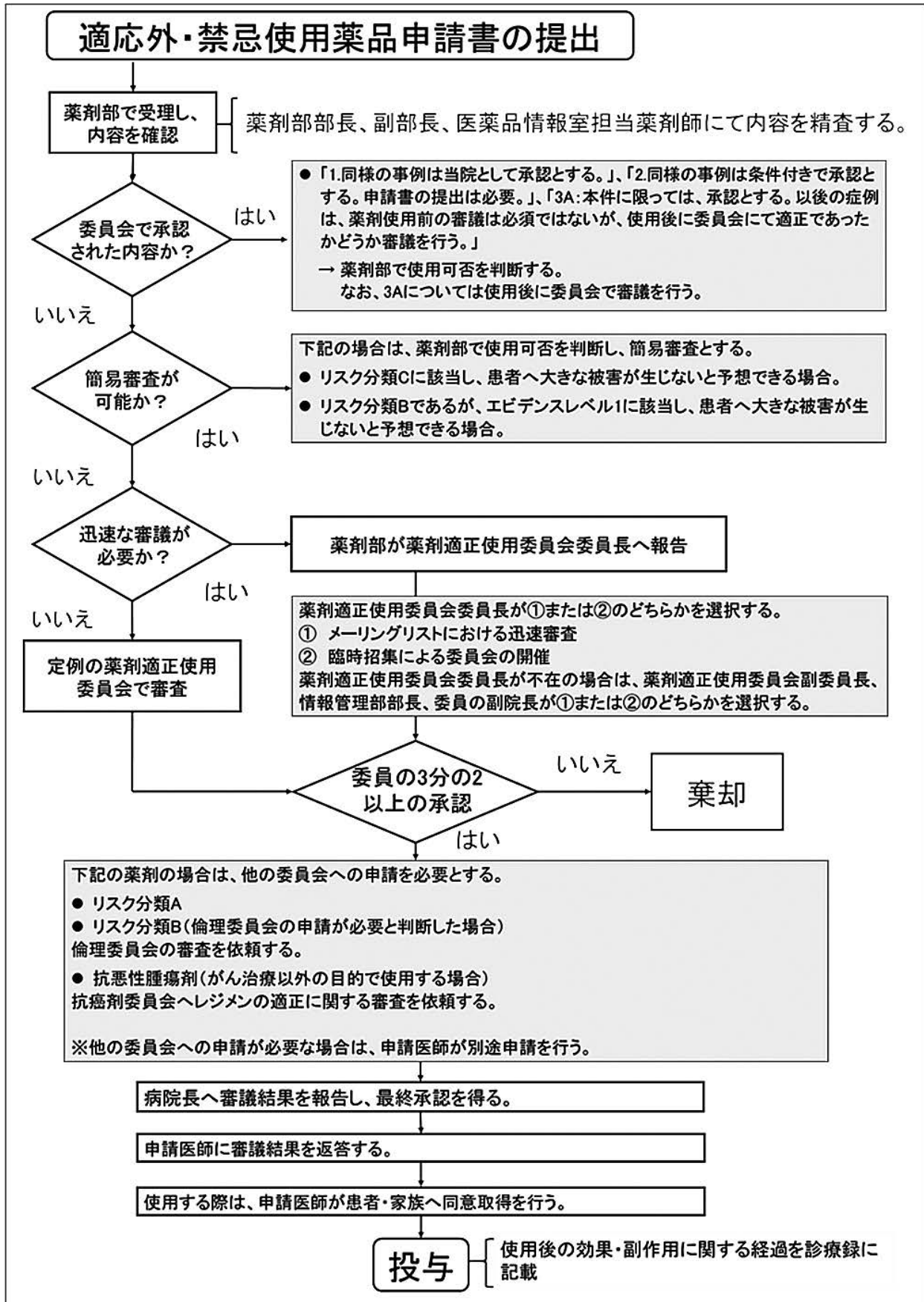


表2 適応外使用を行い医薬品のリスク分類

リスク分類	適応外使用を行う医薬品のリスク分類
A 生命に大きく影響する	①抗悪性腫瘍剤（抗がん剤委員会で承認済のものは除く） ②筋弛緩剤 ③プロポフォール ④上限設定のある医薬品で、上限設定を超過して使用する医薬品 ⑤承認された投与方法より危険性が高い方法で使用する医薬品
B 生命に影響する	①ハイリスク薬（抗悪性腫瘍剤であるが、使用意図が免疫抑制である場合はこちらに含める） ②上限設定の無い医薬品で、承認された用量から大きく逸脱して使用する場合 ③承認された投与方法から逸脱して使用する医薬品
C 生命への影響が少ない	使用経験が豊富で安全な使用が見込まれる医薬品

表3 エビデンスレベルの分類

●エビデンスレベル1 第2相試験以上の結果があり、国内ガイドラインにも記載がある
●エビデンスレベル2 複数の症例報告があり、国内のガイドラインにも記載がある
●エビデンスレベル3 少数の症例報告はあるが、国内のガイドラインに記載は無い
●エビデンスレベル4 症例報告はなく、国内・海外のガイドラインにも記載なし

表4 承認結果の分類

1. 同様の事例は当院として承認とする。
2. 同様の事例は条件付きで承認とする。申請書の提出は必要。
3. 本件に限っては承認とする。 A：以後の症例は薬剤使用前の審議は必須ではないが、事後に審議を行う。 <u>委員会にて使用状況の把握を行う。</u> B：以後の症例は薬剤使用前の審議を必須とする。 <u>委員会にて使用状況の把握を行う。</u>
4. 却下、以後同様の使用は院内で認めない。
5. 継続審議、保留

【結果①】 適応外使用の審査委員会の設置状況

主な審査委員会	A群 (1病院)	B群 (4病院)	C群 (14病院)	D群 (9病院)
未承認医薬品等評価委員会等の医薬品関連の委員会	1	0	5	4
倫理委員会	0	4	9	3
未設置	0	0	0	2

- ・ 主な審査委員会は、倫理委員会が最も多かった。
- ・ 倫理委員会で審査するが、院内製剤は薬剤適正使用委員会等の医薬品関連の委員会での審査や、医薬品のリスクに応じて安全管理を主とした委員会へ諮問する体制も見られた。
- ・ 薬剤適正使用委員会で審査するが、必要に応じて倫理委員会へ諮問する体制も見られた。
- ・ D群の2病院では未設置であった。前医での薬物治療を引き継ぐことが多く、転院相談時のカンファレンスを通して適応外使用の状況を把握する体制が確立され、転院後は新たな適応外使用は無いとのことであった。

【結果②】 適応外使用の審査件数

- ・ A群 124 件、B群中央値（範囲）は 5（1-18）件、C群 1（0-12）件、D群は 0（0-3）件で、合計 190 件であった。
- ・ 190 件中 11 件は却下、1 件は審査対象外であり 177 件は委員会にて承認された。1 件は院長承認であった。
- ・ 190 件中 99 件は審査時においてエビデンスレベル 1・2（国内のガイドラインに記載がある）であった。
- ・ 特に安全な管理が必要とされる薬剤は下記の通りであった。

病院区分	薬剤名	適応外疾患	審査結果	備考
複数の病院	塩化カリウム注 20mEq/20mL+ 蒸留水 80mL	水分負荷がかけられない患者に対して、血清K濃度の補正	承認	1時間以上かけて投与、中心静脈に限定、投与後の血清K値を測定
C群の病院	プロポフォール注	ESD、ERCP時のドルミカム注 脱抑制による鎮静コントロール	承認	他剤無効時のみ
C群の病院	インスリン注	高カリウム血症に対するグルコース・インスリン療法	承認	
A群の病院	トロンボモジュリン α 注	間質性肺炎	却下	エビデンスが不十分、医療費の観点からも却下

【考察】

- ・新たに審査する委員会の設立を必要とせずに、既存の委員会を活用して適応外使用を審査する体制は確立されていると思われる。
- ・慢性期や回復期病院では適応外使用の審査件数が少ないものの散見されており、病院の機能や規模に関わらず組織的な審査体制の確立は必要である。
- ・適応外使用の審査件数は病院間に差が認められた。審査件数が少ない要因は、適応外使用を把握する仕組みが無い、または、個々の薬剤師による疑義照会で解決していると推測される。
- ・前者においては、適応外医薬品リストを共有することによって、漫然と行われている適応外使用への気付きや、ガイドラインでの位置づけを把握するなどの活用が可能である。
- ・後者においては、「適応外使用は、担当医師のみの判断と責任のもと実施されるものではなく、患者安全、倫理、薬剤の適正使用等の観点から組織としての承認を得る必要性」の啓発が必要と考えている。
- ・適応外使用にあたっては、エビデンスに基づき、医学的必要性の確認、患者への適切な説明と患者による選択、副作用のモニタリング体制の強化、診療録への記載が求められる。しかし、医薬品副作用被害救済制度の対象とならないため、必要性和危険性を総合的に判断しながら必要最小限に抑えるなど、総合的な判断が必要である。更に使用中や使用後の観察項目を明確にし、多職種とリスクを共有が求められる。
- ・特に、「エビデンスレベルが低い医薬品」や「リスクが高い医薬品」の適応外使用に対しては、組織的な承認と多職種による使用後の観察を行う体制を確立するために、医薬品安全管理責任者が果たす役割は大きい。このような体制の確立によって、医薬品安全管理者の負担軽減に繋がると考えている。

参考文献) 医薬品安全管理責任者と組織が連携したトルバプタンの安全な使用に向けた取り組み

新井 亘, 土屋 裕伴, 小林 理栄, 諸橋 賢人

日本医療マネジメント学会雑誌(1881-2503)21 巻4号 Page219-223(2021.03)

2. 学会参加者からの質問内容

Q1: 適応外使用はどのようにスクリーニングしているか?

A1: 病棟薬剤師による処方鑑査や、DI室への問い合わせが契機である。最近では医師自ら適応外使用を申請する場合もある。

この審査体制の目的は適応外使用を抽出し把握することよりも、エビデンスに基づき安全に使用か否かを検討し、組織としての承認体制の確立である。

適応外使用は、主治医だけの責任にするのではなく、組織として承認することで主治医も守られる。調剤する薬剤師にとっても、納得して調剤ができると考えている。これらを目的としているため、網羅的なスクリーニングは行っていない。

スクリーニングを行う場合は、医事課からレセプト病名を抽出する方法があるが…。

Q2: (日本医療機能評価機構の審査員から) 適応外使用状況の継続的な把握が必要と言われたが、どのように行っているか?

A2: 全ては行わず重要度で分類する。承認結果の「3本件に限って承認」に該当した使用に対して

は、定期的に使用状況を報告している。把握する頻度は、3ヶ月毎や1年毎等、承認する段階でモニタリング期間や頻度も決定している。

Q 3：適応外使用の審査を、薬剤適正使用委員会が担っている理由は？

A 3：当院は特定機能病院ではないため、「高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否を審査する委員会」は設置していない。

薬事委員会は他の委員会の一区画を用いた同時開催のため本件の議題を設ける時間が無く、倫理委員会では、臨床倫理や研究倫理の審査が主となっており、当委員会が担当した。

特定機能病院以外の病院は、各々の病院の事情に応じて、適切に審査できる委員会を選択すれば良いと考える。今回の調査では、倫理委員会での審査が最も多かった。

Q 4：適応外使用の同意を取得しているか？

A 4：基本的には、「適応外である旨、副作用救済基金の対象外」である旨の説明を行い、同意を得た旨を診療記録に記載している。適応外使用専用の同意書は作成していない。

病院によっては、高カリウム注射液の組成を添付文書より高濃度にした院内製剤を使用している旨をホームページに掲載し、包括同意を取得しているようだが、当院では行っていない。

(この質問をした特定機能病院では、リスク分類が高い医薬品に対しては、適応外使用専用の説明と同意書を用いているとのこと。)

Q 5：抗がん剤は抗がん剤委員会での審査となっているが、当委員会が行わない理由は？当委員会が担うべきでは？

A 5：当院の抗がん剤委員会の委員長は腫瘍内科医師であり、委員はがん治療に精通する医師にて構成され、抗がん剤レジメン登録の承認を行っている。その延長で抗がん剤の適応外使用に対しても審査されている。当委員会は抗がん剤に精通した医師の委員は少ないため、専門性の高い委員会に委ねている。

しかし、おっしゃる通り、当委員会が一元的に把握するために、抗がん剤委員会での適応外承認情報の共有があるべきと考えている。

Q 6：内視鏡時のプロポフォール、承認したのですね…

A 6：当院では承認していないが、調査対象病院の中では承認している病院があった。「他剤を使用しても無効」という内視鏡のガイドラインに記載されている通りの条件付きである。

Q 7：先発品には適応があるが、後発医薬品に適応が無い疾患に対して、この制度を用いて承認する場合はあるか？

A 7：無い。この制度の目的はA 1の通りであり、仮に当院でそのような審査依頼があった場合は審査対象外と判断する。

Q 8：他院からの転院患者の場合、適応外使用か否かがわからない場合はそのように対応するか？

A 8：問い合わせる。

当院ではその事例はまれだが、後方支援病院においては、前医に問い合わせをする場合もあるとのこ

とで、その結果を基に継続している事例があるようだ。

Q 9：リスク分類Aにプロポフォールがあるが、デクスメトミジンが無い理由は？

A 9：プロポフォールは某病院の小児への適応外使用に伴う事故がきっかけで、厳しく管理されていると考えている。デクスメトミジンの適応外使用は聞かれない。また、デクスメトミジンをハイリスク薬に指定するか否かについて、まれに議論になる。

結論としては、ハイリスク薬は10品目程度に厳選する方針があり、やみくもに増やしていない。

Q 10：保険薬局に査定対策を目的として、適応外使用である旨を伝えるか？

A 10：伝える仕組みは無い。各々の薬剤師において退院時に発行する文書を通じて伝える場合もあるかもしれない。問い合わせがあればお答えする程度である。

3. 今後の研究活動の展望

医薬品の安全使用に対する薬剤師の関わりとして、従来から類似薬品名や外観、ハイリスク薬や複数規格を有する薬剤に対する注意喚起の表示等の「対物」を視点とした啓発が行われてきた。昨今ではそれらに加えて、適応外使用や禁忌薬使用の他、副作用・アレルギー・禁忌等の「医薬品情報」を視点とした医薬品の安全使用に対する体制の確立が求められている。

「対物」の基盤を崩すことなく、「医薬品情報」を集約し地域の医療従事者への共有を通して、地域と共に安全な体制を確立していく。

4. 第33回日本医療薬学会の感想

本学会は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行後に開催された最初の年であった。ハイブリットで開催されたシンポジウムもあったが、会場内では多くの方々の姿が見られ、対面ならではの深いディスカッションが行われていた。

また、私の母校がある仙台での開催でもあり、久々に母校の卒業生や、宮城県の名産品に出会えたことも価値があった。日頃の慌ただしい時間から少し離れ、自分自身を振り返る機会にもなった。

第 33 回 日本医療薬学会年会報告

IMS（イムス）グループ イムス三芳総合病院
薬剤部 大木 稔也

2023 年 11 月 3 日から 5 日に仙台国際センターで開催された「第 33 回 日本医療薬学会年会」にて研究発表をいたしました。発表の概要や今後の展望について、ご報告いたします。

1) 学会発表の概要

埼玉県内の薬剤師における病院－病院間・病院－薬局間の連携実態

【目的】

入院・外来を通して安全かつ有効な薬物療法を継続的に提供し、さらにはがんをはじめとした通院治療の支援を適切に行うため病院－病院間・病院－薬局間の連携（以下、病病連携、病薬連携）は重要である。しかし、その実施状況には施設・地域間で差がある。今回、埼玉県内の薬剤師における病病連携、病薬連携を充実させるための知見を得ることを目的に実態を調査した。

【方法】

埼玉県病院薬剤師会会員名簿に記載されている全 315 施設を対象とし、病院の基本情報、病病連携に関わる 4 項目の実施の有無および病薬連携に関わる 8 項目の実施の有無を調査した（図 1）。調査にはグーグルフォームを用い、回答期間は 2022 年 12 月 9 日～2023 年 2 月 28 日とした。重複回答のある場合は最終回答を採用した。

図1 アンケート

【I】ご施設について ※1～4、6～11は割愛。薬剤師数や病床数、病床機能等

【I-5】 属する二次保健医療圏

南部 (山口、萩、下田)
 南西部 (朝霞、志木、和光、新座、富士見、ふじみ野、三芳)
 東部 (春日部、松伏、越谷、草加、八潮、三郷、吉川)
 さいたま (さいたま)
 県央 (鴻巣、上尾、桶川、北本、伊奈)
 川越比企 (東松山、滑川、嵐山、小川、川島、吉見、ときがわ、東秩父、坂戸、鶴ヶ島、毛呂山、越生、鳩山、川越)
 西部 (所沢、飯能、狭山、人間、日高)
 利根 (行田、加須、羽生、久喜、蓮田、幸手、白岡、宮代、杉戸)
 北部 (熊谷、深谷、寄居、本庄、美里、神川、上里)
 秩父 (秩父、横瀬、皆野、長瀨、小鹿野)

【II】 貴院と他院（二次医療圏内）の連携について 設問における対象期間は2022年6月～11月 回答は「はい」「いいえ」の2択

【II-1】 貴院薬剤部門主催の、他院職員を対象とする研修会の開催は1回以上ありましたか

【II-2】 施設薬剤部門間の「情報共有の会」*は1回以上ありましたか

*実務に関する施設間の情報共有を目的とする会。研修会等の他の会と同時に開催されるもの場合は、研修会と情報共有の会が明確に分かれている場合のみ該当します。いわゆる研修会のあとの情報交換会は、情報共有の会とは扱いません。

【II-3】 患者退院・転院（転出）時に、退院後の受療施設または転院先へ薬剤部門から施設間情報提供書（薬剤管理サマリー等）を1件以上発行しましたか

【II-4】 患者転院（転入）時に、転院元の薬剤部門から施設間情報提供書（薬剤管理サマリー等）を1件以上受領しましたか

【III】 貴院と保険薬局（二次医療圏内）の連携について 対象期間は2022年6月～11月 回答は「はい」「いいえ」の2択（3のみ、いいえの場合は外来化学療法の有無に分岐）

【III-1】 貴院薬剤部門主催の、薬局薬剤師を対象とする研修会（連携充実加算に関わらないもの）の開催は1回以上ありましたか

【III-2】 施設薬剤部門・保険薬局間の「情報共有の会」*は1回以上ありましたか

*【II-2】と同様

【III-3】 連携充実加算を1件以上算定しましたか

【III-4】 院外処方箋について、問い合わせ簡素化プロトコルを運用していますか

【III-5】 患者入院時に、保険薬局に患者情報を1件以上照会しましたか

【III-6】 保険薬局から、トレーシングレポートを1件以上受領しましたか

【III-7】 患者退院時に、薬剤部門から薬局に対して施設間情報提供書（薬剤管理サマリー等）を1件以上発行しましたか

【III-8】 発行した施設間情報提供書（薬剤管理サマリー等）について、薬局からの返書を1件以上受領しましたか

※【III-7】で「はい」と回答した場合のみ回答を求めた。ただし、結果に示す「実施状況」の分母には、【III-7】の回答によらず全施設を用いた

【結果】

重複回答を除外した回答数は147件（回答率46.7%）。いずれの医療圏からも40%以上の回答を得られた（表1）。

二次保健医療圏別に解析すると、病病連携の実施率は35.4%～71.9%（図2）、病薬連携の実施率は28.1%～51.6%（図3）と、医療圏により違いがあった。

連携の実施率が高い地域である「さいたま」「県央」「秩父」の回答施設の特徴として、病床数に対する薬剤師数を確保できている施設が多いこと（図4）、一般病院が多い事（図5）が挙げられたが、病床規模に特徴は見られなかった（図6）。

表1 回答施設

	さいたま	県央	西部	川越比企	秩父	東部	南西部	南部	北部	利根	全域
診療所	0% (0/5)	- (0/0)	17% (1/6)	0% (0/3)	0% (0/1)	0% (0/4)	0% (0/1)	0% (0/4)	100% (1/1)	33% (1/3)	11% (3/28)
20-49	25% (1/4)	- (0/0)	75% (3/4)	25% (1/4)	- (0/0)	50% (2/4)	50% (1/2)	100% (1/1)	100% (1/1)	- (0/0)	50% (10/20)
50-99	25% (1/4)	0% (0/2)	36% (4/11)	57% (4/7)	50% (2/4)	29% (2/7)	67% (2/3)	0% (0/3)	33% (2/6)	30% (3/10)	35% (20/57)
100-299	53% (9/17)	42% (5/12)	33% (5/15)	45% (9/20)	75% (3/4)	65% (15/23)	54% (7/13)	69% (9/13)	50% (6/12)	50% (5/10)	53% (73/139)
300-499	83% (5/6)	50% (1/2)	56% (5/9)	50% (2/4)	- (0/0)	71% (5/7)	100% (5/5)	25% (1/4)	50% (2/4)	20% (1/5)	59% (27/46)
≧ 500	100% (3/3)	100% (2/2)	100% (2/2)	67% (2/3)	- (0/0)	100% (1/1)	100% (1/1)	50% (1/2)	0% (0/1)	100% (2/2)	83% (14/17)
その他	0% (0/2)	0% (0/2)	0% (0/1)	- (0/0)	- (0/0)	- (0/0)	- (0/0)	0% (0/2)	0% (0/1)	- (0/0)	0% (0/8)
合計	46% (19/41)	40% (8/20)	42% (20/48)	44% (18/41)	56% (5/9)	54% (25/46)	64% (16/25)	41% (12/29)	46% (12/26)	40% (12/30)	47% (147/315)

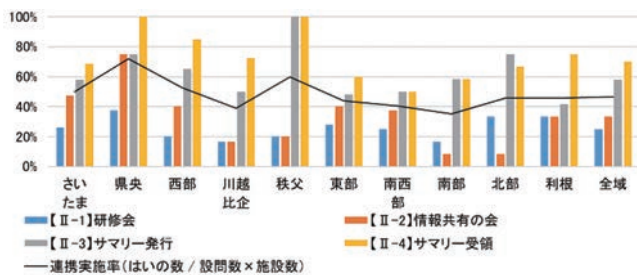


図2 病病連携の実施状況

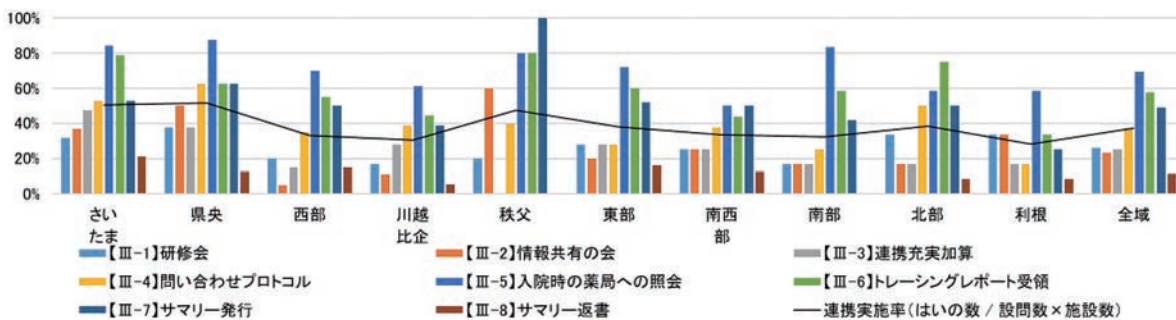


図3 病薬連携の実施状況

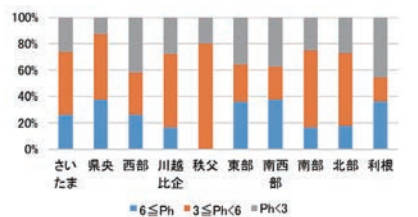


図4 回答施設の薬剤師数 / 100床

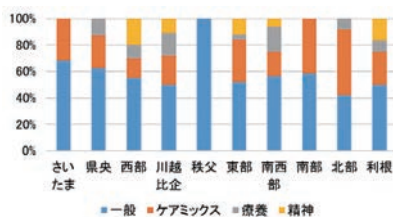


図5 回答施設の病院種別

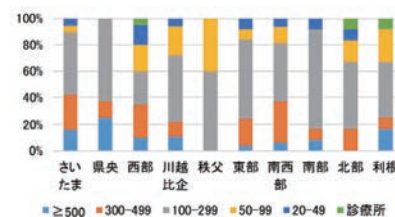


図6 回答施設の病床規模

【考察】

埼玉県内において、病病連携および病薬連携の実施状況は地域により違いがあることが明らかになった。この要因として、病床数に対する薬剤師数、病院種別が挙げられたが、今回調査できなかった地域の特徴との関係についても、さらに検証したい。今後、地域ごとの特徴や需要を踏まえ、連携が充実している地域を中心とした輪を広げる取り組み、連携が充実していない地域での新たな取り組みなどを行うことにより、地域連携を充実させたい。

2) 今後の研究活動の展望

今回の研究は、埼玉県病院薬剤師会 実習教育委員会 中小病院部会 (現 中小病院診療所委員会) の「病病連携および病薬連携は地域により違いがあるのでは?その実態を調べ、埼玉県全域での連携を発展させたい」という思いから始まりました。アンケートには会員施設のおよそ半数、かつ全二次保健医療圏から40%以上の施設に回答いただき、埼玉県全域の実態を調べることができました。

今回の結果をフランクに書けば「今まで全くわからなかったことがぼんやりとわかり、ゆえにわからないことがはっきりしてきた」と感じています。考察にも述べた通り、真に実態を知るためには調査項目が不足していました。今後は本研究をベースにさらなる調査を行い、「埼玉県全域での連携を発展させる」ことを目的として活動していきたいと考えています。

3) 第33回 日本医療薬学会年会報告の感想

今回は新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に下げられて以降、初めての医療薬学会年会でした。その影響もあってか、会場には全国から多くの薬剤師が集まり、ポスター会場でも活発な意見交換が行われていたように思います。我々の研究には、埼玉県内の先生はもちろん、茨城、広島、兵庫など各所の病院薬剤師の先生からもお声がけいただきました。研究に関する意見交換、連携を強化する手段や実例の共有ができ、またこの調査ができたこと自体への驚きの声をいただくなど、現地開催の醍醐味を再認識しました。また薬局薬剤師の先生にも興味を持っていただき、薬局薬剤師も連携を望んでいることを肌で感じ、連携の発展に向けて努めようという意識が強くなりました。

4) 謝辞

本研究は埼玉県病院薬剤師会の会員施設を対象として実施したアンケート調査の結果をまとめたものです。アンケートにご回答いただいた埼玉県病院薬剤師会 会員施設の先生方、アンケートの運営にご協力頂いた埼玉県病院薬剤師会 事務局の先生方に感謝申し上げます。また研究をご指導頂いた埼玉県病院薬剤師会会長 町田充先生、副会長 濱浦陸雄先生、実習教育委員長 眞壁秀樹先生、共同研究者として議論を重ねた中小病院部会の新井真澄先生、小川桂先生、金井紀仁先生、土屋宏二郎先生、林野守将先生、若林純平先生に深く御礼申し上げます。

第 33 回日本医療薬学会年会に参加して

埼玉医科大学病院 薬剤部

横田 敬之

この度の能登半島地震による被災された皆様へ、心からお見舞い申し上げます。

また、被災地で尽力されている医療関係者の皆様・支援者の皆様に深く感謝申し上げます。

2023 年 11 月 3 日～5 日の 3 日間に宮城県仙台国際センター / 東北大学百周年記念会館川内萩ホールで開催された「第 33 回日本医療薬学会年会」でポスター発表を行いましたので、ご報告させていただきます。

1. 学会発表の概要

演題名：災害薬学実習の内容構築と評価

【目的】

薬学実務実習は、2019 年から改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した内容に変更された。その中で、「災害時医療と薬剤師」の項目が新設され修得が求められている。災害時医療の教育プログラムは教育現場や施設によって異なる。当院においても災害薬学教育に従事する薬剤師で教育プログラムを検討し作成した。当院における薬学実務実習生への災害教育の取り組みと実習生の災害時医療・薬事に対して意識調査を行い報告する。

【方法】

災害時医療・薬事の教育プログラムは、5 時間程度の「災害時の初期対応と思考」と 1.5 時間程度の「災害時の経験や取り組み」を行っており、実習方式としてはスモールグループディスカッション (SGDs) と講義を中心としたプログラムとなっている。2022 年度 3 期と 4 期の薬学実務実習生計 24 名を対象とし、災害時医療・薬事に対しての実習前後でアンケート調査を実施した。

【結果・考察】

災害時医療・薬事に関しては多くの学生が興味を持っており、SGDs においても活発な議論が進んだ。特に多くの実習生が実際の現場活動について興味を示したが、災害時の初期対応や災害対策準備に関しては認識が乏しい学生が多くいた。

また、今まで災害薬学教育を受けたことがないと回答した学生もあり、学生の災害教育への意識づけや思考に乖離が出ないような標準プログラムが必要と感じている。今後改訂予定の薬学教育モデル・コアカリキュラムでは災害教育に関しても災害時に薬剤師が果たすべき役割や行動など学修目標や学修事項として取り上げられており、当院も実習プログラムのブラッシュアップが必要と思われる。

『スケジュールについて』

①災害時の初期対応と思考

(スモールグループディスカッション (SGDs) を中心に)

- ・災害の際に何が必要か、何を持っていくか (SGDs)
- ・BCP (事業継続計画) について (講義、SGDs)
- ・供給体制と法律について (講義)
- ・トピックスについて：災害と電子化
「電子化って便利？不便？」 (SGDs)

- ・アクションカードについて (SGDs)
- ・トランシーバー実習 (実技) など

②災害時の経験や取り組み

実際の災害現場での生きた経験

- ・東日本大地震で経験
- ・埼玉県災害薬事について考えや取り組み など

2. 学会発表時の質疑応答

- ・スケジュール作成はどのように検討したのか？

→薬剤部の DMAT 隊員、日本災害医学会の Ph-DLS のインストラクターの先生と検討を行いました。内容は学生の意見を様々取り入れたかったので、主にグループディスカッション形式を多く取り入れました。

- ・学生の反応はどうですか？

→ポスターで記載した通りですが、概ね積極的に取り組めておりました。ただ、専門的な用語もあり、理解が十分でなかったりする場合もありました。

- ・トランシーバーを取り入れているようですがどのような講義でしょうか？

→実際にトランシーバーを使わせてみて、情報共有の方法を体験していただいております。講義の中では一番好感触です。

3. 参加・発表における感想

災害と薬学実習というあまり発表自体が多くない内容でしたので、様々情報交換ができ有意義な学会参加発表となりました。

自然災害自体はいつ何時起きるかわかりません。その際に医療者としてやれることは何か、考えることは何かと思いつけることが大事だと思います。

私自身も東北が地元であり、実際に家族や親戚、友人などが被災・避難を余儀なくされました。何もできないことが非常に無力と感じ、研修会などで学ばせていただき、学生に講義を行わせていただいております。

学生自体が災害を思い返せる機会を提供し、考えなおせることが講義としての目的だと思います。コアカリキュラムに合わせた内容にすることはもちろんのこと、学生自身の興味や学びに合わせて全体の実習プログラムも含めブラッシュアップしていくことが必要と考えます。

また、埼玉県病院薬剤師会には【災害・救急委員会】も設立されておりますので、情報共有・収集などにご利用いただければと思います。

最後になりますが、今回学会参加発表の機会をいただき埼玉医科大学病院薬剤部眞壁部長を始め、薬剤部員の皆様に感謝申し上げます。

第 33 回 日本医療薬学会に参加して

新座病院 薬剤科

安藤 正純

2023年11月3日から5日にかけて仙台で開催された、第33回医療薬学会で「機能別病院群でのフォーミュラ導入における課題解決に向けての検討」と題し発表してきました。埼病薬会員の先生方へも是非ご紹介させていただきたいと考え、筆を取るのではなくパソコンへ入力しました。ご一読いただくと幸いです。

【目的】 戸田中央メディカルケアグループ (TMG) ではフォーミュラの領域の構築および導入を進めています。急性期病院や慢性期病院、専門病院など様々な機能の病院が所属しており、導入も一律には進んでいません。宮崎らの報告によると、病院の機能によりフォーミュラの認識について差が見られたと報告しています。そこで、病院の機能別の導入数と影響を与えている因子について調査を行いました。

【方法】 TMG傘下29病院の導入数、導入している領域を調査しました。フォーミュラワーキンググループ (WG) に在籍している薬剤師を配置している病院を配置群、配置していない病院を非配置群としました。導入数について、病院機能別比較にKruskal-Wallis検定、導入群と非導入群の2群比較にマンホイットニーのU検定を用いて評価しました。有意水準は0.05としています。

【結果】 病院機能別での導入領域数の平均は急性期病院で5領域、回復期病院では11領域、療養型病院では6領域、専門病院では2領域でした ($p = 0.13$)。導入が進んでいる領域は α グルコシターゼ阻害薬、RAS系阻害薬、尿酸生成阻害薬、抗インフルエンザウイルス薬などでした。フォーミュラ導入領域の平均は配置群8領域、非配置群5領域であり、有意に配置群が多い結果となりました。 ($p = 0.015$)。

【考察】 今回の調査では、回復期病院での導入数が高い傾向が示されました。急性期病院と療養型の病院では平均導入数は近似していたが、導入が進んでいる病院と、進んでいない病院の差が開いていました。WGメンバーの在籍の有無がフォーミュラの導入に影響を与えていることが示されました。専門病院は病院の特性により評価が難しいと考えられました。

【結論】 急性期および療養型病院へ適切な支援を行う必要があることが示されました。フォーミュラの導入を進めるには、論文評価が行える薬剤師の配置が導入数へ影響を与えていたため、今後は、TMG所属薬剤師への教育体制の整備を進めることが重要であると考えられます。

TMGでは2019年4月よりフォーミュラの活動を行っています。フォーミュラを作成してもそれぞれの病院での導入領域数に偏りが見られるため今回の調査を行いました。

考察でも述べていますが、急性期病院よりは回復期病院の方では導入領域が多いことが示されています。実際の臨床現場の視点から見てみると、入院時の薬剤費はほぼ定額となっており、医師を含む医療者全体として平日頃コスト意識が高いことが背景にあることが浮かび上がってきます。一方で療養病院では異なる結果が見られており、理由の一つとして薬剤師の配置人数が十分でない可能性があ

りますが今後の課題です。

急性期病院では、治療を優先しなければならない背景がありますし、退院までの薬剤調整に十分な時間が取れないことも影響を与えていると考えています。

WG に所属している薬剤師が配置された病院では有意に導入領域が多いことが示されています。実際に医師へのアプローチや薬剤師の教育などでイニシアティブを取ることも多く見られます。

以上をまとめると、急性期病院および慢性期病院ではフォーミュラリに対する支援がより欠かせませんし、WG メンバーの配置そして論文評価が出来る薬剤師を育成していく必要性が浮かび上がります。いずれにしても長期的な視点を持ち地道な活動が必要であると考えています。

【地域フォーミュラリについて】

病院フォーミュラリの導入のみではなく、地域フォーミュラリの導入も進んできています。新座病院が所属している朝霞地区では医師会・歯科医師会・薬剤師会（三師会）に対しフォーミュラリについてのアンケート調査を行いました。そして、三師会としてフォーミュラリ作成に向けて意見交換を行っています。朝霞地区でフォーミュラリの導入が進めば、採用医薬品の整理や在庫管理の圧縮などが期待できますが、何より地区にお住いの患者様に対し適切な医薬品を提供できると期待しています。病院でのフォーミュラリ導入も重要ですが、退院後の患者様へ最適な薬剤を継続して服用していただけるようにするためにも地域フォーミュラリは重要な役割を果たせるものと考えています。そのために地道な活動を続けていきます。

<医療の質・安全部会から>

調剤過誤事故発生時の対応

埼玉県病院薬剤師会 医療の質・安全委員会
新都市医療研究会 [関越] 会 関越病院
鈴木 俊久

先日、調剤薬局より疑義照会の連絡がありました。インスリン製剤の代替切り替えに関するものでした。ノボラピット 30MIX フレックスペンをフレックスタッチに代えて良いかという内容でした。当初はそれで問題なしと回答しようとしたのですが、はて？と思い、添付文書を見返したところ、フレックスペンはあるがフレックスタッチは販売されていないことに気づきました。そこで確認したところ、過去にも処方歴がありどうやらノボラピッドフレックスタッチを調剤し、患者に交付していたことが判明しました。「調剤過誤」でした。疑義をしてきた薬剤師さんは「どうしましょう？」とおっしゃっていました。

各薬局に対応手順があるはずなのでそれに従って対応すべきですが、病院の薬局として協力できることは主治医に状況を報告し指示を仰ぐこと、薬局側には患者と連絡を取って健康状態の確認、受診が必要であればその手配をすることを提案しました。すぐに主治医に連絡を行い、健康状態、特に低血糖の症状がなければ明日の受診でよいと指示がありましたので、薬局に連絡し、患者さんの状態を伺ってもらったところ、低血糖が発生していないようなので明日、受診をするように指示をしました。

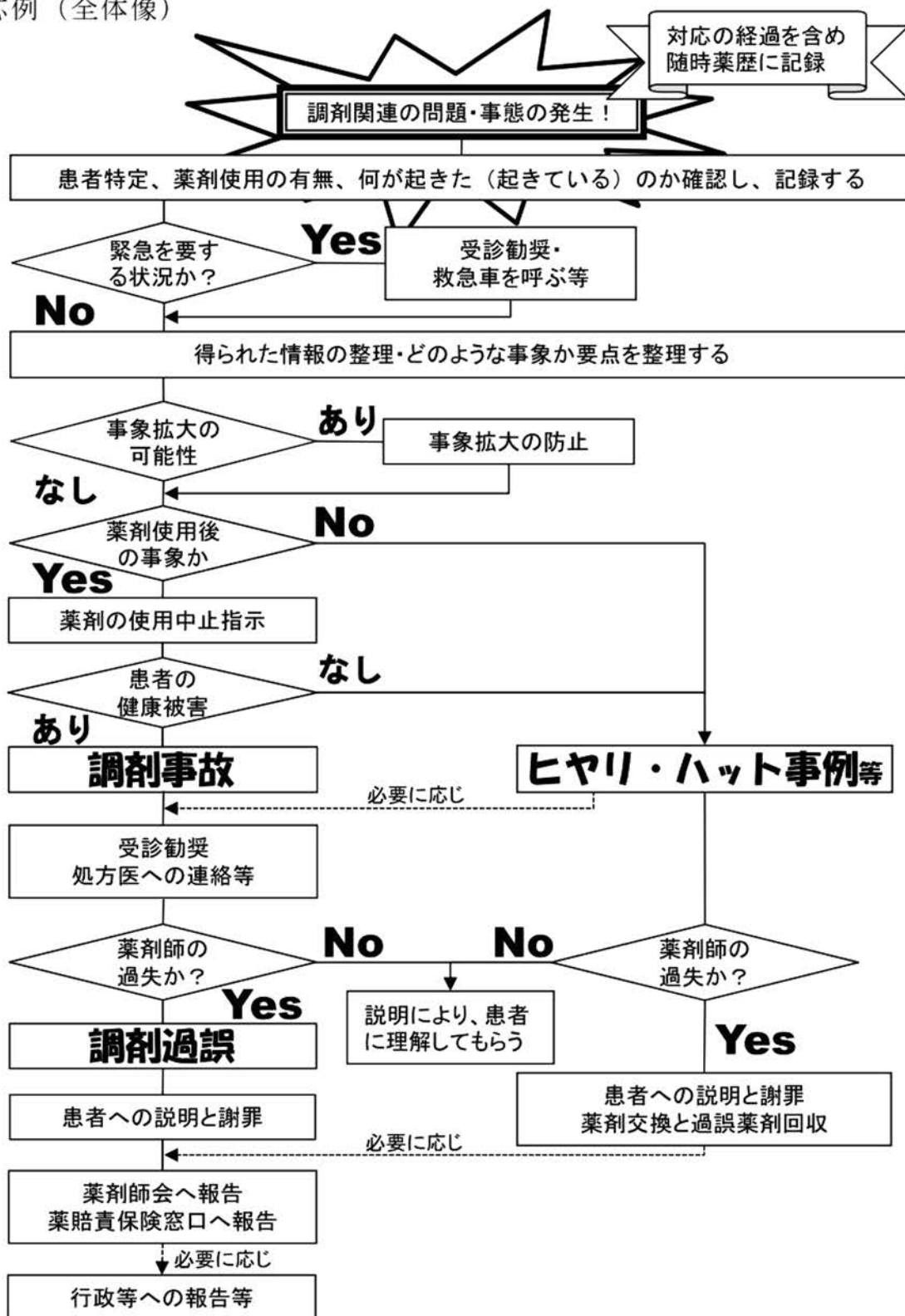
翌日に薬局の責任者が患者さんと同行し、主治医の診察や検査を行い特に異常がなかったので本来の処方通りの薬剤を交付することとなりました。大きな問題がなくてほっとしました。

原因と再発防止のことも大切なのですが、事故が発生した場合の対応はとても大切です。マニュアル化するのはとても難しいのですが、日本薬剤師会が「薬局・薬剤師のための調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアル」等があります。事故発生時の初期対応、情報整理、患者への対応、記録、続発の防止、証拠保全のことなどを分かりやすくまとめています。また各病院にはそれぞれ医療事故発生時の対応手順が用意されているはずです。調剤過誤という薬剤師が関与することが多い事故を想定して、手順やマニュアルを読み込んで、自部署の手順としていくと良いのではないのでしょうか？

また実際に訓練を行っておくことも大切だと思います。事故発生時はかなりの負荷、ストレスがかかり過度の緊張状態となります。訓練等で慣れておくことである程度は冷静に対応できるはずです。

(参考・引用文献：薬局・薬剤師のための調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアル 平成 26 年 1 月日本薬剤師会)

対応例（全体像）



- 事故処理過程は可能な限り詳細かつ客観的に記録するよう努める。
- 薬剤使用後は経過観察も重要であり、薬歴等への記載が望ましい。
- 患者に重大被害が発生した場合等は、当該薬局だけでの対応の限界に考慮し、速やかに薬剤師会へ連絡する。
- 全過程を通し、誠意を持って対応する。

社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院
薬剤部の業務紹介

埼玉石心会病院 薬剤部
大木 孝夫



■病院概要

埼玉石心会病院は、埼玉県狭山市にあり「断らない医療」「患者主体の医療」「地域に根ざし地域に貢献する医療」という3つの理念をもとに地域の急性期医療を担う病院です。

1987（昭和62）年に石心会狭山病院として、急性期病院を開院しました。2013（平成25）年に埼玉石心会病院へ名称変更し、30年目となる2017（平成29）年11月に狭山市駅西口から徒歩10分の土地に新築移転し、450床の病院として新たに開院しました。

病床数	450床（一般410床うちICU 12床、HCU・CCU 27床、回復期40床）
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、神経内科、感染症内科、人工透析科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科（全33科）
臨床センター	ER 総合診療センター、心臓血管センター、低侵襲脳神経センター

■薬剤部概要（2024年）

薬剤部員数	薬剤師 44名（うち育休1名） SPD6名 / 日（外部委託）
入院内服・外用処方箋枚数	9,803枚 / 月
入院注射処方箋枚数	15,474枚 / 月
薬剤管理指導件数	1,960件 / 月
退院時薬剤情報管理指導件数	749件 / 月
退院時薬剤情報連携加算件数	18件 / 月
周術期薬剤管理加算件数	262件 / 月
化学療法混注処方箋枚数	289枚 / 月
連携充実加算件数	71件 / 月

専門・認定資格	日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師	1名
	日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師	2名
	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師	5名
	日本糖尿病療養指導士	3名
	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師	2名
	日本臨床栄養代謝学会栄養サポート専門療養士	1名
	日本病院薬剤師会精神科薬物療法認定薬剤師	1名
	認定実務実習指導薬剤師	7名
	日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師	18名
	日本薬剤師研修センター認定薬剤師	2名
	ACLSプロバイダー	1名
	日本救急医学会 ICLS インストラクター	1名
	日本臨床栄養協会 NR・サプリメントアドバイザー	1名
	公認スポーツファーマシスト	5名
	漢方薬・生薬認定薬剤師	1名
	日本核医学会核医学認定薬剤師	1名
	周術期管理チーム薬剤師	3名
	がんゲノム医療コーディネーター	2名

当院は、2017年に新築移転し6年が経過しましたが、院内は清潔感あふれるきれいな病院です。院内の一番眺めが良い最上階の6階に職員食堂があり、晴れた日には、富士山が真正面に見え、とても眺めの良い景色で食事をとることができます。

薬剤部の薬剤師は、平均薬剤師経験年数が10年、そのうち当院在籍歴が9年であり、経験豊富な人材が多く活躍しています。有給取得率は100%を毎年維持し、最長10日間の長期休暇制度を設け、働きやすい環境を整えています。

■業務体制

【調剤業務】

調剤業務は、整合性のチェック強化を目的に内服・外用、注射ともにDX化を進め、基本的に内服薬は、全自動分包機による一包化、注射薬も全自動注射払い出し装置（アンプルピッカー）による払い出しを行っています。また、ピッキングが必要な場合もGS-1コードを読み取り照合する調剤過誤防止システムを利用しています。妥当性のチェックに関しても調剤支援システムを利用したり、PBPMを活用したりすることにより処方監査の精度を高めています。放射性医薬品の取り扱いには、経験豊富な有資格者が責任者を務め安全性に配慮しています。



自動錠剤分包機



GS-1コードを利用した調剤過誤防止システム

【化学療法業務】

化学療法の調製には、職員の安全性を配慮しアイソレーターを使用しています。また、曝露調査も実施し、職員の安全性や環境整備に努めています。妥当性のチェックである処方監査には、レジメン管理システムを利用しています。整合性のチェックは、GS-1コードを利用した調剤過誤防止システムを利用しています。



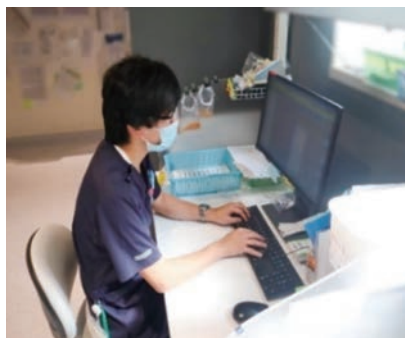
アイソレーターを使用した抗癌剤調製

【病棟薬剤業務】

当院では、20年以上前から病棟に薬剤師を常駐し、病棟薬剤業務を実施してきました。新天地に移転後も全ての病棟およびユニットに薬剤師を配置し、病棟薬剤業務および薬剤管理指導業務を実施しています。また移転と同時に手術室にも薬剤師を配置し、周術期の薬剤管理を実施しています。

各フロアには、無菌調製が可能なサテライトファーマシーを設置し、中心静脈栄養輸液の無菌調製はもちろんのこと、末梢静脈栄養輸液等の無菌調製も薬剤師が担っています。

配薬セットに関しては、週2回もしくは週1回程度と限られますが、SPDに配薬を担ってもらい、薬剤師が確認する体制としています。



病棟薬剤業務



薬剤管理指導業務



ICUでの多職種カンファレンス



TPN、PPN等の無菌調製



サテライトファーマシー全景

【DI業務】

DI業務は、専任の薬剤師による各種マスタメンテナンス、DI検索システムのメンテナンス、薬事審議委員会の資料作成、全職員へのDIニュースやお知らせの配信、院内各種マニュアルの改訂などを行っています。最近ではフォーミュラリーを作成して医師の処方支援に係わる活動に注力しています。



DI室での勉強会

【各種チーム活動】

当院のチーム活動は、患者主体の医療の理念にもとづき、患者さんにとって有益であるならば、診療報酬に係わらず早期に取り組む特徴があります。例えばNSTは、2006年から、ASTも2007年から活動を開始しています。いずれも診療報酬に係わらず活動を開始しています。近年では、2020年からポリファーマシー対策チームの活動を開始し、2023年からAPS（術後疼痛管理チーム）の活動を開始しています。



ASTによるラウンド



APSによるラウンド

■おわりに

当院薬剤部では、患者さんひとりひとりに最適な薬物療法を提供するために、質の高い薬剤師を育成し、昨今のデジタルトランスフォーメーションに対応できる環境を整えています。今後も患者さんにとって有益な活動であればいち早く取り組み、患者さんの薬物療法における満足度向上が図れるよう努めます。



●●●●●●●●
寄贈会誌
●●●●●●●●

2023.1 ~ 2023.12

- | | | | |
|------|--|------|--------------------------------------|
| 北海道 | 「会誌」 No. 104, 105 | 熊本県 | 「病薬にゆ一す」 Vol. 55 No. 2 Vol. 56 No. 1 |
| 青森県 | 「会誌」 No. 82, 83 | 鹿児島県 | 「会誌」 No. 62 |
| 岩手県 | 「病薬いわて」 Vol. 47 No. 1, 2 | 沖縄県 | 「会誌」 No. 24 |
| 山形県 | 「広報誌」 No. 34 | | |
| 宮城県 | 「病薬にゆ一す」 No. 94 | | |
| 福島県 | 「病診薬だより」 No. 116 | | |
| 群馬県 | 「会誌」 No. 50 | | |
| 栃木県 | 「会誌」 No. 129 ~ 132 | | |
| 茨城県 | 「会報」 Vol. 64 No. 1, 2 | | |
| 千葉県 | 「会報」 No. 218 ~ 221 | | |
| 東京都 | 「会誌」 Vol. 72 No. 1 ~ 6 | | |
| 神奈川県 | 「会誌」 No. 55 No. 1 ~ 3 | | |
| 長野県 | 「病薬誌」 No. 86 ~ 89 | | |
| 山梨県 | 「會報」 No. 23, 24 | | |
| 愛知県 | 「APJHP」 Vol. 50 No. 3 Vol. 51 No. 1, 2 | | |
| 富山県 | 「会報」 No. 147, 148 | | |
| 石川県 | 「病薬ニュース」 No. 182 ~ 184 | | |
| 岐阜県 | 「会誌」 No. 72 | | |
| 三重県 | 「会誌」 Vol. 52 No. 1, 2
「D. I. news」 No. 36 | | |
| 奈良県 | 「会誌」 Vol. 54 | | |
| 京都府 | 「京都薬報」 No. 533, 544 | | |
| 大阪府 | 「O. H. P. NEWS」 Vol. 65 No. 1 ~ 11 | | |
| 和歌山県 | 「会誌」 No. 32 | | |
| 愛媛県 | 「会誌」 No. 133, 134 | | |
| 広島県 | 「会誌」 Vol. 58 No. 1 ~ 4 | | |
| 岡山県 | 「会報」 No. 254 ~ 257 | | |
| 島根県 | 「雑誌」 No. 94, 95 | | |
| 高知県 | 「会誌」 No. 143, 144 | | |
| 鳥取県 | 「病薬とつとり」 No. 90 | | |
| 長崎県 | 「会誌」 No. 125 ~ 127 | | |
| 佐賀県 | 「会誌」 Vol. 51 No. 1, 2 | | |
| 福岡県 | 「会誌」 No. 219 ~ 222 | | |
| 大分県 | 「会報」 Vol. 54 No. 2 Vol. 55 No. 1 | | |

●●●●●●●●
会のうごき
●●●●●●●●

8月23日	埼玉県薬事団体連合会団体長会議に町田充会長出席	
9月5日	第137回輸液・栄養管理研修会	オンライン研修会
9月6日	第2回災害・救急委員会	オンライン会議
9月7日	第38回精神科領域部会	オンライン会議
9月7日	ジェネリック医薬品工場見学研修会に長谷部忠、金子智一理事が出席	
9月12日	関東ブロック第54回学術大会第3回実行委員会	於：ソニックシティ 906 会議室
9月17日	第11回認定実務実習認定薬剤師養成講習会	於：東上パールビルヂング 4F
9月21日	第25回臨床業務実践講座「糖尿病」研修会	於：ソニックシティ 604 会議室
9月22日	第36回感染制御領域専門研修部会	於：ソニックシティ 702 会議室
9月26日	第74回評価委員会	於：事務局
9月27日	関東ブロック第54回学術大会プログラム委員会	オンライン会議
10月2日	第6回広報委員会	オンライン会議
10月3日	関東ブロック第54回学術大会第8回準備実行委員会	於：小峰ビル1階会議室
10月12日	第324回病院薬学研修会	オンライン研修会
10月15日	第25回県民のためのくすり講座	オンライン研修会
10月20日	関東ブロック第54回学術大会第9回準備実行委員会	於：小峰ビル1階会議室
10月21日	日病薬地方連絡協議会に町田充会長出席	
10月24日	令和5年度第1回埼玉県総合医局機構地域医療教育センター運営企画部会に 中村房子事務局員が出席	
10月26日	第72回感染制御研修会	オンライン研修会
10月27日	第4回理事会	オンライン会議
10月31日	第18回妊婦授乳婦・小児科領域研修会	オンライン研修会
10月31日	第52回埼玉県薬事衛生大会に町田充会長・濱浦睦雄と近藤正巳副会長出席	
11月3日	第29回埼玉県薬剤師会学術大会に町田充会長出席	
11月7日	日病薬関東ブロック第54回学術大会第4回実行委員会	於：ソニックシティ 906 会議室
11月8日	第106回抗がん剤研修会	オンライン研修会

11月8日	埼玉県薬事団体連合会団体長会議に近藤正巳副会長出席	
11月10日	第3回薬事運営会議	オンライン会議
11月13日	第70回埼玉県地方薬事審議会に多田幸子副会長出席	
11月14日	日病薬関東ブロック第54回学術大会第10回準備実行委員会	於：小峰ビル1階会議室
11月15日	第36回地域ネットカンファレンス	オンライン研修会
11月15日	医療の質・安全部会会議	オンライン会議
11月17日	第30回薬事研修会	オンライン研修会
11月17日	薬事団体連合会ホームページに関する打ち合わせ会に濱浦睦雄副会長、 田村賢士総務委員出席	
11月21日	第75回評価委員会	於：事務局
11月22日	第1回中小病院・診療所委員会研修会	オンライン研修会
11月22日	クラウド型会員管理システムに関する説明会に町田充会長、 近藤正巳・多田幸子副会長、総務委員他 Zoom にて出席	オンライン会議
11月29日	第2回総務委員会	於：呉竹荘
11月29日	第27回糖尿病領域委員会	オンライン会議
12月5日	第19回妊婦授乳婦・小児科領域研修会	オンライン研修会
12月7日	第48回精神科薬物療法研修会	オンライン研修会
12月8日	第325回病院薬学研修会	オンライン研修会
12月12日	第138回輸液・栄養管理研修会	オンライン研修会
12月15日	埼玉防災 Pharmacist Network 講演会	オンライン研修会
12月19日	第5回理事会	オンライン会議

●●●●●●●●●●●●●●●●
理事会開催報告
●●●●●●●●●●●●●●●●

令和5年度 第4回 理事会議事録

開催日時：2023年10月27日（金）17：30～19：30

開催場所：オンライン会議（Teams）

キーポイント 小峰ビル 4階 事務局（さいたま市浦和区高砂3-12-24）

理事定数：15名以上20名以内（理事現在数20名）

出席者：理事 町田充、近藤正巳、多田幸子、濱浦睦雄、新井成俊、新井亘、池上幸子、
伊藤典子、大塚潔、金子智一、須田修輔、長谷部忠史、日比徹、星野真之、
真壁秀樹、牧野好倫、矢吹直寛（以上17名）

監事 三宮忠

事務局 中村房子、金子久代

議事の経過の要領及びその結果

I 議長選出 町田充会長を全員一致で選出した。

II 報告事項

1. 2023年度第3回埼病薬理事会議事録（8/23）

池上幸子総務委員会委員長より報告があった。

2. 会務報告（8/23～10/27）

池上幸子総務委員会委員長より報告があった。

3. 第5～7回広報委員会議事録（9/1、10/2、10/13）

多田幸子広報委員会担当幹事より報告があった。

4. 第2回災害・救急委員会議事録（9/6）

新井成俊災害・救急委員会委員長より報告があった。

町田充会長より、埼玉県薬剤師会災害対策委員会との連携に関して県薬に予算編成が必要か検討するように申し入れがあった。

5. 第3回中小病院・診療所委員会議事録（9/11）

伊藤典子中小病院・診療所委員会委員長より報告があった。

6. 第2回感染対策委員会議事録（9/22）

近藤正巳感染対策委員会委員長より報告があった。

【関東ブロック関連】

7. 第54回関ブロ第8～9回準備実行委員会議事録（10/3、10/20）

8. 第54回関ブロ第3回実行委員会（9/12）

上記7～8について近藤正巳第54回関ブロ第3回実行委員長より報告があった。

9. 第54回関ブロ編集委員会議事録（9/27）

金子智一第54回関ブロ編集委員会委員長より報告があった。

【日病薬関連】

10. 日病薬第1回中小病院委員会議事録（7/29）

11. 日病薬中小病院・療養病床連絡会議議事録（8/26）

12. 日病薬令和4年度中小療養担当者連絡会議の協議結果報告
上記10～12について濱浦睦雄理事より報告があった。
中小病院・診療所委員会を中心に埼玉県内や近隣の薬学部の学生に対して人材確保に関しアプローチしていくことが承認された。
13. 日病薬令和5・6年度議事運営委員会委員、選挙管理委員会 委員御指名のお願い (7/24)
町田充会長より多田幸子副会長に委嘱のお願いをしたとの報告があった。
14. 日病薬令和5年度現状調査回答状況について
町田充会長より報告があった。
15. 日病薬の会員管理システムのクラウド化および日病薬病院薬学認定薬剤師制度のシステム化の経過
報告について町田充会長より報告があった。
16. 日病薬地方連絡協議会報告について
町田充会長より報告があった。

【生涯研修センター】

17. 生涯研修センター第74回評価委員会議事録 (9/26)
大塚潔生涯研修センター長より報告があった。
18. 第19回感染制御委員会議事録 (9/22)
近藤正巳感染制御委員会委員長より報告があった。
19. 第38回精神科領域委員会議事録 (9/7)
須田修輔精神科領域委員会委員長より報告があった。
20. 2022年度研修会明細最終集計について
町田充会長より報告があった。
今後の研修会においても参加者や収益の増加に繋がる企画運営をお願いしたいとの説明があった。
21. センター名称変更に関する合意書等について
中村房子事務局員より報告があった。

【その他】

22. 令和6年度厚生労働省予算概算要求・税制改正要望資料
町田充会長より報告があった。
23. インボイス制度の件
町田充会長より当会税理士に相談した結果、埼玉県薬剤師会はインボイス制度に関わらなくてよい免税事業者であるとの報告があった。
24. 第8次医療計画について
町田充会長より第8次医療計画について説明があり、薬剤師の必要性に対する意見を埼玉県のパブリックコメントで発信して欲しいとの依頼があった。
25. 地域医療教育センター会議報告について
中村房子事務局員より報告があった。今後地域医療教育センターの各種シミュレーターを用いた研修なども今後企画して頂くように依頼があった。
26. 厚生労働省保健局医療課委託事業 (9/14 HP 掲載)
濱浦睦雄副会長より説明がありあった。

Ⅲ 審議事項

1. 入会希望者の承認

池上幸子総務委員会委員長より下表の通り、A会員12名、C会員1名の入会希望があり議場に承認を求めたところ、全員異議なく本件は承認された。

2. 委員の追加

以下について多田幸子広報委員会担当幹事より委員の追加の説明があり議場に承認を求めたところ、全員意義なく本件は了承された。

広報委員会 戸ヶ崎梨香（北里大学メディカルセンター）

3. 後援依頼

下記について事務局より説明があった。

① 炎症性腸疾患市民公開講座 in 埼玉（11/11）ヤンセン

② 第3回さいたま救急集中災害医療薬学研究会（11/15）大塚製薬工場

ここで今後の講演会の後援について、町田充会長の提案で議場にてディスカッションを行い、以下の結論を得た。

共催、後援は法人として行う。

共催は研修会の運営を製薬会社等と役割分担し共に開催する形態とする。

製薬会社等が単独で開催（主催）している場合、後援はしない。

但し公的団体（医師会など）が共催となっている場合は後援となることは不可能ではない。

本日の後援依頼については議場に承認を求めたところ、全員意義なく①は承認、②は差し戻しとする結論となった。

4. 「埼玉県における感染制御に関する認定取得状況に関するアンケート」のお願い

近藤正巳感染制御研修部会委員長より同アンケートの依頼文とアンケート本文について提案があり、町田充会長より議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認し、可決した。

5. 埼病薬医療安全ネットワークの発足とメンバーの募集、医療安全担当薬剤師の現状把握に関するアンケートのお願い

新井亘医療の質・安全対策領域専門研修部会委員長より同アンケートの依頼文とアンケート本文について提案があり、町田充会長より議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認し、可決した。

6. 県病薬ホームページへの会員施設一覧掲示について

伊藤典子中小病院・診療所委員会委員長より会員施設一覧を本会ホームページに公開したいとの申し出があり町田充会長より議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認し、可決した。

7. 薬剤師向け SNS 起ち上げについて

多田幸子広報委員会担当幹事より第7回広報委員会議事録にある通り広報委員会での薬剤師向け SNS 起ち上げの提案について説明があり、町田充会長より議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認し、可決した。

8. 2025年度薬学部学生対象就職説明会実施について

町田充会長より前年度、株式会社ユニヴファーネット事務局が担当で開催した埼玉県病

院合同説明会が成功を収めたことから 2025 年度薬学部学生対象就職説明会実施を本年 12 月 17 日に開催したい旨が示され、その後議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認し、可決した。

9. 新年会について

池上幸子総務委員会委員長より 2024 年 1 月に下記の通り新年会を開催したいとの申し出があった。

日時 2024 年 1 月 16 日（火）17：00～19：00

場所 武蔵一宮氷川神社呉竹荘

以上について町田充会長より議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認し、可決した。

【関東ブロック関係】

10. 日病薬関東ブロック第 54 回学術大会趣意書について

近藤正巳第 54 回学術大会実行委員長より本大会の趣意書が示され、町田充会長より議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認し、可決した。

【日病】

11. 日病薬薬剤管理サマリー（令和 5 年度改訂版）について

濱浦陸雄日病薬中小病院委員長より資料に基づき説明がありその後町田充会長より議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認し、可決した。

12. 実施団体のシール申請料金について

濱浦陸雄研修センター評価委員会委員長より評価委員会で提案のあった改定案（別紙）が示され、3 月の臨時総会で承認後実施したいとの案が示された。その後町田充会長より議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認し、可決した。

13. 会員名簿について

池上幸子総務委員会委員長より 2023 年度版は 12 月 20 日ころに会員のお手元に届く予定であること、また次年度の作成については未定であることが報告され、その後町田充会長より議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認し、可決した。

14. その他

- ① 金子智一理事より今後の予定として新任薬剤師研修会（1 月 20 日）、埼玉県病院薬剤師会学術大会（3 月 16 日ソニックシティ 603）の開催のアナウンスがあった。
- ② 中村房子事務局員より各理事に対して研修会企画時の注意事項の説明があった。
 - ・研修シールは G15、P04 を申請できるようにしており、日病薬の申請は開催 40 日以前にポスターと企画書が事務局に提出されていることが条件となる。
 - ・ポスター・企画書の提出後ホームページに掲載、関連団体への情報伝達、Petix や Zoom 設定を行う。集合型研修の会議室は事務局が押さえるので企画書提出時に相談願いたい。
 - ・研修会終了後、成果報告書にて単位申請を行うが、最近は各種認定単位の発行が増えているので協力をお願いしたい。
- ③ 次回生涯研修センター全大会は 2 月 6 日（火）に開催される。
- ④ 新井成俊理事より地域と記載された場合「地域研修部会」「地域連携委員会」かわからないとの意見があり、町田充会長より正式な名称で記録するように依頼があった。

- ⑤ 矢吹理事より第30回薬事研修会（11月17日）が開催されるので、各理事にアナウンスの依頼があった。
- ⑥ 町田会長より第33回医療薬学会年会の会場で関ブロ2024のポスターを配布することとなった。
- ⑦ 本会前会長北澤貴樹先生が10月23日厚生労働大臣表彰を受けられ、10月31日埼玉県薬事衛生大会伝達式が予行されること、またこれに付随して武田泰生日病薬会長も同様の表彰を受けられた。
- ⑧ 次回第5回理事会開催予定 2023年12月19日（火）17：30～-

以上をもって議事を終了したので、議長は19時10分閉会を宣した。

令和5年度 第5回 理事会議事録

開催日時：2023年12月19日（金）17：30～19：10

開催場所：オンライン会議（Teams）

キーポイント 小峰ビル 4階 事務局（さいたま市浦和区高砂3-12-24）

理事定数：15名以上20名以内（理事現在数20名）

出席者：理事 町田充、近藤正巳、多田幸子、濱浦睦雄、新井成俊、新井亘、池上幸子、
伊藤典子、大塚潔、奥富秀典、金子智一、北澤貴樹、須田修輔、長谷部忠史、
日比徹、星野真之、真壁秀樹、牧野好倫、矢吹直寛（以上19名）

監事 岸野亨

事務局 中村房子、金子久代

議事の経過の要領及びその結果

I 議長選出 町田充会長を全員一致で選出した。

II 報告事項

1. 2023年度第4回埼病薬理事会議事録（10/27）

池上幸子総務委員会委員長より報告があった。

1/16開催の当会「新年会」について追加説明があった。町田充会長から多くの理事の参加が求められた。

2. 会務報告（10/28～12/19）

池上幸子総務委員会委員長より報告があった。

3. 第2回総務委員会議事録（11/29）

池上幸子総務委員会委員長より報告があった。

4. 第3回薬事運営・実習教育委員会合同会議議事録（11/10）

矢吹直寛薬事運営委員会委員長より報告があった。

5. 第70回埼玉県地方薬事審議会報告（11/13）

多田幸子副会長（埼玉県地方薬事審議会委員）より報告があった。

6. 第54回関ブロ第4回実行委員会（11/7）

近藤正巳第54回関ブロ実行委員長より報告があった。

尚、各シンポジウムの企画書作成の依頼が、12月末日までと報告があり、再度、各理事へ案内をすることとなった。

7. 第54回関ブロ第10準備実行委員会議事録（11/14）

近藤正巳第54回関ブロ実行委員長より報告があった。

新井亘理事よりシンポジストの内諾に際して曜日の希望があり何時頃返答できるかとの質問があった。

それに関しては次回の準備実行委員会（1/23）で話し合うのでその日を目処とすること返答した。

8. 第54回関ブロ 懇親会会場下見報告（12/13）

近藤正巳第54回関ブロ実行委員長より報告があった。

9. 日病薬クラウド型会員管理システムについて
近藤正巳副会長より報告があった。
当会でのマイページ登録が少ないため、当会の HP 上に「会員マイページの仮 ID、仮パスワードを紛失した場合」の項目を設けている旨が伝えられた。
10. 日病薬第 3 回中小病院委員会議事録 (12/3)
濱浦陸雄副会長 (日病薬中小病院委員会委員長) より報告があった。
11. 生涯研修センター第 75 回評価委員会議事録 (11/21)
大塚潔生涯研修センター長より報告があった。
12. 第 27 回糖尿病領域研修部会議事録 (11/29)
日比徹糖尿病領域研修部会委員長より報告があった。
13. 第 24 ~ 25 回緩和医療領域研修部会議事録 (10/16、12/12)
星野真之緩和医療領域研修部会委員長より報告があった。
14. 第 38 回医療の質・安全部会議事録 (11/15)
新井亘医療の質・安全部会委員長より報告があった。
15. 埼玉県薬剤師会理事会報告
町田充会長より報告があった。
16. 令和 5 年度薬学生実務実習受け入れ薬局講習会について (1/14)
真壁秀樹理事より報告があった。

Ⅲ 審議事項

1. 入会希望者の承認

池上幸子総務委員会委員長より下表の通り、A 会員 9 名の入会希望があり議場に承認を求めたところ、全員異議なく本件は承認された。

2. 後援依頼

下記について事務局より説明があり、町田充会長より議場に承認を求めたところ、議場に承認を求めたところ、全員意義なく了承となった。

・第 9 回日本薬学教育学会大会

3. 埼病薬 謝礼・交通費について

近藤正巳総務委員会担当幹事より別紙を元に説明があり、町田充会長より議場に承認を求めたところ、議場に承認を求めたところ、全員意義なく了承となった。

4. 広報委員会用メールアドレスについて

多田幸子広報委員会担当幹事より説明があり、議場での議論の末、@ saibyoyaku.or.jp は使用せず当面はフリーメールアドレス等で活動してみるとの結論を得たうえで町田充会長より議場に承認を求めたところ、全員意義なく了承となった。フリーメールアドレスや他ドメイン使用時は費用等提示したうえで町田充会長に一任することとなった。
本メールアドレスによる広報運用方法などを伝達するように町田充会長から指示があった。

5. 関プロ懇親会のこと

近藤正巳第 54 回関プロ実行委員長より懇親会会場としての「鉄道博物館」下見報告 (12/13) を元に説明があり、下記を含め今後も準備実行委員会で詳細を決めていくとのことであった。

- ・料金プランは基本プランとする
- ・懇親会料金は 8000 円以内とする
- ・17：00 より受付開始、17：30 より入館し開宴、19：45 閉会式を予定
- ・駐車場は借りない
- ・クロークはテーブルなどを借りて本会で対応する
- ・食事関係はメディセオと今後も調整する

町田充会長より今後について議場に承認を求めたところ、全員意義なく了承となった。

6. 埼玉県薬剤師生涯研修センターに向けて

濱浦陸雄評価委員会委員長より「埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター」が3月総会をもって「埼玉県薬剤師生涯研修センターに名称変更をするために、現在の関係書類の見直しを行った結果の報告があった。町田充会長よりこれらの変更を踏まえ議場に承認を求めたところ、全員意義なく了承となった。

7. インボイス制度への対応について

町田充会長より最近本会がインボイス制度に対応するかとの問い合わせがあるため「インボイス制度への対応について」の文書をHPにアップしたいとの提案があり議場に承認を求めたところ、全員意義なく了承となった。

8. その他

- ・日病薬第 68 回臨時総会の意見募集について (2/17)

意見のある方は町田充会長に提出願いたい。町田充会長が関東ブロック会長会に提案して対応するとの呼びかけがあった。

- ・埼病薬第 22 回学術大会について (3/16)

金子智一総合研修部会委員長より学術大会を予定通り開催するかとの打診があった。町田充会長より 2024 年は関東ブロック学術大会担当の為、無理ではないかとの提案があり、町田充会長より「2024 年の委員会や部会研修会等の運営について」の文書を作成、案内周知することとなった。

尚、後日金子智一総合研修部会委員長より中止との結論になったと町田充会長に連絡があった。

- ・新任研修会を 1/20 (土) に開催すると金子智一理事から案内があった。

- ・第 54 回関東ブロック学術大会時に DrJoy が企画運営するビーコンを用いたシステムが人の移動の把握や単位発行に役立てないかと町田充会長から説明があり、今後情報共有が求められた。

- ・次回の臨時総予定 3月12日(火) Web 開催

- ・次回の第 5 回理事会開催予定 2024 年 2 月 20 日 (火) 17：30 ～

以上をもって議事を終了したので、議長は 19 時 10 分閉会を宣した。

委員会開催報告

2023年度 第2回総務委員会

開催日時	2023年11月29日(水) 15時30分～16時30分
開催場所	呉竹荘(さいたま市大宮区高鼻町:武蔵一宮氷川神社)
出席者	坂上洋子、池上幸子、中村房子、金子久代 欠席:近藤正巳、猪股ふみ子、北澤貴樹、曾我部直美、松沼篤、上野正夫、大木崇弘、佐々木茂樹、森田淳介、永野浩之、須賀宏之、田村賢士
協議事項	清水園スタッフと2024年1月16日開催の新年会の打ち合わせを行った。 ＜呉竹荘への行き方＞ ○徒歩(25分程度)→JR大宮駅東口、高島屋の前の通りを、駅を背に直進する。10分程度で右側に交番を確認したら左折、15分程度で右側に呉竹荘がある。敷地に入る黒い扉の前に横断歩道あり。 ○送迎バス(26名乗り)の利用→当日は、15時45分発と16時30分発の2便(JR大宮駅東口、高島屋の前の通りを、駅を背に直進すると左側に埼玉りそな銀行があり、その前に停車) ＜呉竹荘の入り口＞ ○呉竹荘は道路に面していない。呉竹荘がある敷地の入り口に黒い扉があるが、全開できない。入り口の脇の木製の案内板に呉竹荘の表示は行う。 →非常に気がつきにくいので「玄関誘導係2名」必要。 ＜駐車場＞ ○呉竹荘がある敷地の神社よりにコインパーキングあり。5時間以内の利用であれば無料。 →受付時に駐車券の必要の有無を確認し、必要時渡す。 ＜受付＞ ○呉竹荘の玄関に入ってすぐに机があり受付業務が行える。テーブルクロスがかかっているため、そこに「受付」の表示をすることは可能。 →「受付は4名」必要。 ＜控え室:来賓と総務委員＞ ○受付の左側に広い部屋があり、テーブルと椅子が設置されている。1列が4台程度のテーブルで構成され、それが2列設置されている。来賓の休憩と荷物の置き場として利用することは可能(貴重品は置かない)。 →「来賓係は会長、副会長」 ○部屋の端に、総務委員の荷物を置くことも可能。 →ハンガーポールを立てコートを掛けてもらう(清水園と調整要)。 ＜クローク＞ ○クロークはないため、来賓以外は受付でコートの預かりが必要。受付の後ろに、ハンガーポールを立てコートを預かる。預かり券は清水園で準備する。→「クローク係は3名」必要。 ○尚、受付右手にロッカーがあるが使用できない。来賓以外は、荷物は会場に持参してもらう。

	<p><傘立て> ○呉竹荘の玄関の屋外にある傘立てを利用する。</p> <p><喫煙場所> ○呉竹荘の玄関（屋外）にある。</p> <p><レストルーム> ○1階と2階の奥にある。</p> <p><会場> ○宴会場は2階だが、エレベーターはない。受付の右手の階段を利用する。 ○2階の廊下に椅子があるので休憩は可能。</p> <p><会場内> ○入って左手に舞台、その左脇に司会台が設置。天井は低い。垂れ幕は可能。 ○来賓用（着席）の大テーブル（10名着席可：2台のテーブル<180cm×60cm?>で大テーブル1台とする）が2～3台（来賓数による）、立食用テーブルも同様に大テーブル1台とし、6台程度設置する。尚、丸テーブルはない。 ○椅子は、壁側に設置する。 ○当日は清水園スタッフ5名がサーブする予定。</p> <p><食事と飲み物> ○来賓用のテーブルと立食用テーブルに、最初から料理は設置する。 ○各テーブルに料理は6品程度を大皿に盛り付ける。 ○飲み物は、会場後方にバーカウンターを設置する。</p> <p><今後の予定> ○当日の会場及び1階受付のハンガーポール設置のレイアウト（案）は、12月4日の週に清水園スタッフから埼病薬事務局に提出される予定。その内容を確認し、再度清水園と調整を行う。</p> <p><係分担（案）> ○総務委員は、当日16時、会場集合予定 ○総務委員等の当日の参加人数によるが、必要人数の概算は下表の通り。</p> <table border="1" data-bbox="391 1393 1399 1576"> <tr> <td>来賓係</td> <td colspan="5">会長、副会長</td> </tr> <tr> <td>総務委員</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>玄関誘導係</td> <td>2名</td> <td>受付</td> <td>4名</td> <td>会場誘導係兼司会</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>会場誘導係</td> <td>2名</td> <td>クローク</td> <td>3名</td> <td>調整係</td> <td>1名</td> </tr> </table> <p>○当日は、調整係が、出席者の動きを見ながら係の人数調整を行う。</p>	来賓係	会長、副会長					総務委員						玄関誘導係	2名	受付	4名	会場誘導係兼司会	1名	会場誘導係	2名	クローク	3名	調整係	1名
来賓係	会長、副会長																								
総務委員																									
玄関誘導係	2名	受付	4名	会場誘導係兼司会	1名																				
会場誘導係	2名	クローク	3名	調整係	1名																				
次回開催予定	未定																								
文責者	池上幸子																								

2023年度 第5回広報委員会

開催日時	2023年9月1日(火) 18:30～20:30
開催場所	浦和駅西口アトレ3階 魚力
出席者	多田幸子、渋谷清、中田和宏、伊藤経介、岡田美紗紀、香田博、小村理香、佐々木雅大、戸ヶ崎梨香
報告事項	<p>前回議事録の確認</p> <p>新広報委員(佐々木雅大先生、戸ヶ崎梨香先生)2名が加わったことから広報委員会全員で自己紹介を行った。</p> <p>広報委員会の活動概要について、渋谷委員長より説明があった。</p>
審議事項	<p>1. 薬事運営委員会「県民のためのくすり講座」の広報活動支援について 下記の内容が承認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌9月号に「県民のためのくすり講座」の案内を入れる。 ・ポスターの配布について 小村委員から提案されたさいたま市SNSの活用については、現在、矢吹理事が関係機関に問い合わせている状況である。また、さいたま市内調剤薬局に掲示してもらおう案もあり、関係者に相談することになった。 <p>2. 中小病院・診療所委員会との協力について 埼玉県病院薬剤師会HPに「県内病院施設案内」を作成する件については多田担当理事、渋谷委員長が総務委員会、中小病院・診療所委員会、事務局と進め方を協議することになった。</p> <p>3. Lineによる情報発信の具体化 広報委員会内に「SNS WG」を結成し、具体的な作業を進めることになった。このWGは、岡田美紗紀委員をリーダーとし、小村理香委員、佐々木雅大委員、戸ヶ崎梨香委員を構成員とする。尚、このWGによる協議は広報委員会の一つとして認め、議事録作成して理事会に報告するものとする。協議の進め方にあたっては、総務委員会、事務局との調整を図りながら、年内の理事会承認を目標とする。</p> <p>4. 2024年日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会シンポジウムについて 広報委員会としての提案として、「入院時持参薬の取り扱い」とすることになった。</p>
次回開催予定	9月中にZOOM開催する。
文責者	渋谷清

2023年度 第6回広報委員会

開催日時	2023年10月2日（月）18：00～18：45
開催場所	ZOOM会議
出席者	小村理香、岡田美紗希（リーダー）、佐々木雅大、戸ヶ崎梨香
審議事項	<p>今回は、広報委員会の下部組織であるSNS部隊による会議を実施した。</p> <p>① SNS WG としての目標 「薬剤師向けの SNS（LINE）立ち上げ」 ・まずは会員の薬剤師向けに作成する。 ・今後、県民向けやほかの SNS の作成も検討していく。</p> <p>② リッチメニューの内容について 1 広報誌へのリンク（目次だけでも良さそう） 2 関ブロへのリンク（最近のトピックスや HP と繋げる） 3 メルマガ情報へのリンク （厚生労働省より送られてくる情報を加えてもよいのでは？） 4 研修案内</p> <p>③ LINE 作成について共有した情報 1 立ち上がりはメールアドレスがあれば行える 2 費用 ・プランがいくつか存在する、最初はライトプランが最適 （5000 通 / 月までは無料） ・プラン変更はいつでも可能 ・アカウントは QR コードで登録できる ・配信する人数によって費用が異なるため、人数把握が必要</p> <p>④ 確認が必要な事項 ・メルマガの配信状況（誰がどのように作成しているか）</p> <p>以上の内容を広報委員会（全体会議）に諮り、SNS による情報発信方法を確認していく。</p>
次回開催予定	未定
文責者	渋谷清

2023年度 第7回広報委員会

開催日時	2023年10月13日(金) 18:00～19:00
開催場所	ZOOM会議
出席者	多田幸子、渋谷清、中田和宏、香田博、岡田美紗紀、戸ヶ崎梨香
審議事項	<p>前回議事録(第6回広報委員会)の確認</p> <p>1 SNSを活用した情報発信概要を下記の通りとした。 この内容について、次回の理事会で承認を得て行く。</p> <p>① SNS WGとしての目標 「薬剤師向けのSNS(LINE)立ち上げ」 ・まずは会員の薬剤師向けに作成する。 ・今後、県民向けやほかのSNSの作成も検討していく。</p> <p>② リッチメニューの内容について(当初) ・広報誌へのリンク(最初は、目次のみ掲載) ・関ブロへのリンク(最近のトピックスやHPと繋げる) ・メルマガ情報へのリンクについては、事務局等の関係部署と協議する。 ・研修案内(掲載は、研修担当委員会等に委ねる)</p> <p>③ LINE作成に伴う費用 ・プランがいくつか存在する、最初はライトプランが最適 (5000通/月までは無料) ・プラン変更はいつでも可能</p> <p>2 2024年1月号の内容(案) 下記の内容で進めることが承認された。 1. 年頭所感・・町田会長(さいたま赤十字) 2. 巻頭言・・近藤副会長(埼玉医大医療センター) 3. 薬局業務紹介・・国立病院機構 埼玉病院 4. 会員のひろば-医療質・安全部会・・新井理事(上尾中央) 5. 学会報告・・吉川中央総合病院、埼玉石心会病院、春日部厚生 春日部中央総合病院、東松山医師会病院 6. 県民のためのおくすり講座 報告 7. SNS発信紹介 8. 関東ブロック情報 9. 事務局だより</p> <p>3 関東ブロック学術大会 シンポジウムに関する広報委員会からの提案は、従来と変わりなく「持参薬管理」となった。 この方針を10月16(月)に開催される「関東ブロ シンポジウムすりあわせ会議」で報告する。</p>
次回開催予定	未定
文責者	渋谷清

2023 年度 第 3 回薬事運営・実習教育委員会合同会議議事録

開催日時	2023 年 11 月 10 日 16：30～17：30						
開催場所	オンライン開催						
出席者	担当幹事 濱浦睦雄 副会長 実習教育委委員長 真壁秀樹 薬事運営委員長 矢吹直寛 薬事運営委員会 副委員長 野村淳 井上雅美、横田敬之、野本祐介、斉藤健一、竹内絵美、清水敦子、逸見和範、日比徹、岡田直子、澤田唯美、 欠席者：町田会長、問註所英明、林良行、中川朗宏、中村綾乃（敬称略・順不同）						
協議及び報告事項	報告事項 <p style="text-align: center;">☆薬事運営委員会より以下の報告があった。</p> ① 10 月県民のためのくすり講座の振り返り 研修会参加人数：63 名アンケート提出数：52 件（アンケート回収率：82.5%） ピンクリボン月間の中の開催で実施。埼玉県の後援、埼玉県 SNS、越谷市 SNS での発信の実施を行った。講義の内容もアンケート結果から「わかりやすかった」と 75%以上のお返事を頂き、以前に比べ 30～50 代の参加者が増加した。 次回の開催に向けては「ポスター」の作成を早く行い、広報活動を行っていく。						
	開催日	回数	演題	講師	開催形式	参加人数	広報活動
	2023/10/15	第25回	乳がん治療中、あなたのそばに寄り添える薬剤師がいます	埼玉医大国際医療センター 薬剤師 日本医療薬学会がん専門・指導薬剤師 藤堂 真紀 先生	オンライン	63	ポスター 郵送 SNS さいたま市薬
	2023/3/21	第24回	～Withコロナ時代～ 災害時は薬剤師にご相談を	埼玉医科大学病院薬剤部係長 鈴木 善樹 先生	ハイブリット	62	ポスター 郵送
	2022/11/3	第23回	「冬場の乾燥は油断大敵 アトピー性皮膚炎」～お肌のケアから 新し い治療薬まで～	ブラーナクリニック 薬剤部長・小児アレルギーエデュケーター・アレルギー疾患療養指導士 逸見 和範 先生	オンライン	104	ポスター 郵送 施設等へのポ スター配布
	② 11 月薬事研修会 研修会名：第 30 回 埼玉県薬事研修会 主催者：一般社団法人埼玉県病院薬剤師会 日時：2023 年 11 月 17 日（金）午後 6 時 00 分から午後 7 時 00 分まで（予定） （5 時 30 分より入室可能） 会場：オンライン形式（Zoom） プログラム： 開会の辞 一般社団法人埼玉県病院薬剤師会 会長 町田 充 座長 一般社団法人埼玉県病院薬剤師会 副会長 多田 幸子 講演 薬剤師における適切な薬剤選択～病院薬剤師と大学教員の経験を基に～ 日本薬科大学 薬学科実践薬学分野 准教授 石村 淳 先生 閉会の辞 一般社団法人埼玉県病院薬剤師会 副会長 濱浦 睦雄						

2023年度 薬事研修会 タイムテーブル

日時：11月17日（金曜日）18：00～19：00

場所：オンライン配信：埼玉県病院薬剤師会事務局よりWEB配信（Zoom）

タイムテーブル	所要時間	内容	詳細
16:20～16:30	10分	事務局集合	事務局、運営チーム（矢吹、野村、井上）
16:30～17:10	40分	接続確認	運営チームのPCを共同ホストに指名 共同ホスト①開始前スライド共有 共同ホスト②ブレイクアウトルーム作成、誘導
17:10～17:30	20分	出演者接続	事務局参加：澤田（時間までに事務局へ） オンライン参加：石村、多田、町田、濱浦 入室次第、ブレイクアウトルームへ誘導
17:30～18:00	30分	外部参加者入室開始	待機（ブレイクアウトルームにて最終確認） 開始と同時に共有スライド解除
18:00～18:02	2分	開会	司会：澤田
18:02～18:07	5分	開会の辞	埼玉県病院薬剤師会 会長：町田 充
18:07～18:10	3分	座長挨拶	埼玉県病院薬剤師会 副会長：多田 幸子
18:10～18:50	40分	講演	薬剤師における適切な薬剤選択 ～病院薬剤師と大学教員の経験を基に～ 日本薬科大学 薬学科 実践薬学分野 准教授 石村 淳 先生
18:50～18:55	5分	質疑応答	埼玉県病院薬剤師会 副会長：多田 幸子
18:55～19:00	5分	閉会の字	埼玉県病院薬剤師会 副会長：濱浦 睦雄
19:00～19:00	0分	閉会	司会：澤田 終了後アンケートの依頼
19:00～19:00	0分	予備	共同ホスト①終了後スライド共有 共同ホスト②ブレイクアウトルームに移動後、出演者退室

19:00 修了予定

③ 3月県民のためのくすり講座の確認

開催日 3月3日：「第26回県民のためのくすり講座」

オンライン開催で実施予定。「糖尿病領域専門研修部会」とコラボして開催とする。演者は、糖尿病の専門部会より、選出する。開会の挨拶（会長）、座長、閉会の挨拶（副会長）に依頼をかける。ポスターは、12月までに完成させ、後援をなるべく多く獲得する。埼玉県糖尿病協会に1月までにポスターを送れば、患者会に送ることが出来るので、共同していく。（齋藤委員が理事なので窓口になってもらう）

④ 来年度の計画・予算

24年度の年間スケジュール案

5月10日（金） 16：30－ 第1回薬事運営委員会

5月23日（木） 19：00－20：00 診療報酬研修会

7月12日（金） 16：30－ 第2回薬事運営委員会

10月20日（日） 14：00－15：00 第27回 県民のためのくすり講座

11月8日（金） 16：30－ 第3回薬事運営委員会

11月15日（金） 18：30－20：00 第31回 薬事研修会

2月7日（金） 16：30－ 第4回薬事運営委員会

3月23日（日） 14：00－16：45（相談含む）、3月20日（祝木） 14：00－16：45（相談含む） 3月16日（日） 14：00－16：45（相談含む） いずれかで、第28回 県民のためのくすり講座、県民のためのくすり相談を開催する。

※ いずれも開催方法は検討する。

委員のメンバーの負担軽減のためにも担当制として、
Aチーム：診療報酬、薬事研修会
Bチーム：県民のためのくすり講座
Aチーム主担当：斉藤 健一、竹内 絵美、清水敦子、日比 徹、中村彩乃
Bチーム主担当：林 良行、横田 敬之、澤田唯美、井上 雅美、逸見和範
(敬称略)
を主軸として開催していく。そのためにも薬事運営委員会への正式な委任を行って
いく。

⑤診療報酬研修会の検討

来年5月の診療報酬研修会について

演者の選出を行っていく。適任者を検討して行く。開催形式は継続検討とする。

⑥関東ブロック学術大会につて

公開講座：中止

- ・会長後援+小佐野先生 ⇒ 薬事 + 実習
 - ・教育公演2 学会発表や論文の書き方講座 ⇒ 実習(メイン)+薬事(サブ)
 - ・シンポジウム 人財育成⇒ 中小 + 実習+薬事
 - ・シンポジウム 診療報酬 ⇒ 薬事(メイン) + 実習(サブ)
- で行っていく。

シンポジウム 診療報酬

時間は120分

シンポジスト 4名(1人20分) ディスカッション40分予定

なぜ、こういった経緯で診療報酬改訂なったのか?薬剤師にこういった事を期待しているんだとそのような内容を1演題⇒総括的な話が出来方:行政もしくは、川上先生などを呼びたい。診療報酬の骨格が出ないと最終的には決定できないが、診療報酬改定での「注目になりそうな内容」⇒救急、薬剤師外来、回復期・・・具体的にどうやってとっているのか?の内容を3演題とする。

☆実習教育委員会より以下の報告があった。

1, 第11回認定実務実習認定薬剤師養成講習会が開催され無事に終了した。

日付 2023年9月17日(日)

時間 10時~15時10分

※要員は9時集合.16時30分撤収

場所 東上パールビルヂング(川越市)4階第三会議室

参加 18名

主催 埼玉県病院薬剤師会

要員 横田 敬之、中川 朗宏

責任者 眞壁 秀樹

講師 小佐野 博史先生、田島 敬一先生

2, 第11回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップが開催され無事に終了した。

日付 2023年10月8日(日) - 9日(月・祝)
時間 9時~18時00分
※要員は8時集合
場所 日本薬科大学
規模 2P6S (54名受講)
主催 薬学教育協議会・埼玉県薬剤師会
埼玉県病院薬剤師会
ディレクター 町田 充 会長
タスクフォース 眞壁 秀樹 (チーフタスク)、日比 徹
矢吹 直寛、井上 雅美、中村 綾乃
中川 朗宏
会場責任者 岡田 直子
事務局 清水 敦子

3, 関東ブロック学術大会に向けて

① 教育講演 (実習+薬事合同)

講師 昭和薬科大学 理事長 渡部 一宏 教授

演題名

「もしもあなたが臨床研究を学べば 病院薬剤師業務はもっとときめく」
(仮)

座長 未定

② シンポジウム (実習+薬事+中小合同)

内容 人材育成、人材確保、卒後教育、実習、キャリア

時間配分 発表 15分×5人 ディスカッション 35分

タイトル 薬剤師確保 実習、卒後教育、キャリア

単位 後日確認

収容人数 200名

講師 5名

座長 2名

③ 謝金に関して

シンポジウム 関東ブロック「内」の日病薬会員 : 無し

関東ブロック「外」の日病薬会員 : 旅費のみ

非会員 :

謝金2万円(医師は3万円)+旅費+参加費+懇親会招待

※予算として1シンポジウム 最大6万円まで。

謝金+旅費の合計10万円まで

会長講演・特別講演・教育講演

日病薬会員 : 3万円+旅費+懇親会ご招待

非会員 : 3万円+旅費+参加費+懇親会ご招待

座長 : 謝金なし

運営スタッフ : 日当5000円

	<p>4, 今年度の活動 アドバンスワークショップに関して 開催候補日 2024年2月18日(日) or 2024年3月3日(日) ※3月3日は県民のための薬講座開催日 開催場所 未定(城西大学もしくは日本薬科大学)</p> <p>5, 学会発表報告 第33回日本医療薬学会年会 2023年3日-5日(仙台) イムス三芳総合病院 大木 稔也 先生 「埼玉県内の薬剤師における病院-病院間・病院-薬局間の連携実態」 セッション名: 一般演題(ポスター) 49 セッションテーマ: 薬薬連携 発表日時: 2023年11月5日(日) 12:40~13:25 演題番号: P1096-5-PM</p> <p>実習教育委員会時にアンケートを実施した結果報告です。 次に繋がるいい発表でした。</p> <p>6, 次年度の動き ①ワークショップ 年1回 2025年11月23日-24日 3P9S(84名) 予定 場所: 日本薬科大学 予定 ②養成講習会・更新講習会 年1回予定(Wsにあわせて) ③アドバンスワークショップ 年1回 開催日・場所は未定</p>
次回開催予定日 場 所	2月9日(金) 16:30 - (予定) オンラインもしくは集合
文 責 者	矢吹直寛

2023年度 第2回災害・救急委員会 議事録

開催日時	2023年9月6日(水) 18:00～19:00
開催場所	WEB開催(ZOOM)
出席者	新井成俊、鈴木善樹、伊賀正典、立石直人、秋山茉耶、栗原弘紀、佐藤充朗、石川詩帆、磯田明宏、佐野邦明、佐伯文啓、清水直樹(敬称略)
欠席	中嶋友哉、問註所英明、秋山栄彬(敬称略)
報告及び懸案事項	<p>【検討内容】</p> <p>1. 今年度災害救急委員会が設立した意義を説明する研修会を行う 候補日: 12月8日(金) 開催予定(WEB開催) →今回は災害がメイン『災害』と『救急』を分けてできれば2回開催したい(今年度中が目標) また、上記研修会にて災害救急委員会メンバーを紹介予定</p> <p>2. 埼玉県内の災害救急に関わる薬剤師の調査・育成 (タスクマネージャー育成) 各2次医療圏に委員を1名配置する。委員は担当圏内のファーマシストネットワークに登録した薬剤師(124名)がPhDLS研修会等を受講できるようコミュニケーションを取ることが目標 まずは、委員会のメンバーでPhDLSを受講していない方は(11/12)か(1/8)のコースに参加して頂く。申し込みは11/12開催のPhDLSコース受付は開始済み(日本災害医学会より申し込み可能) →鈴木副委員長より申し込み方法のお知らせがあった</p> <p>『災害薬事研修の開催日程』 インストラクターコース 1月7日(日) 会場予定→埼玉小児医療センター8階</p> <p>プロバイダーコース 11月12日: 会場予定→大宮ソニックシティ 1月8日(月:祝) 会場予定→埼玉小児医療センター8階</p> <p>3. 埼玉県薬剤師会の「災害対策委員会」との連携 会長より薬剤師会との連携に立石委員(再任)と鈴木委員(新任)が指名され、8/24の埼玉県薬剤師会災害対策委員会に参加した 次回10/4(水) 開催予定</p> <p>4. 日本病院薬剤師会の「災害対策委員会」との連携 災害登録派遣薬剤師の登録 中嶋 友哉委員 磯田 明宏委員 秋山 茉耶委員 栗原 弘紀委員 石川 詩帆委員 佐伯 文啓委員</p>

	<p>上記6名が日本病院薬剤師会からの要請で登録派遣薬剤師となった。今年の第16回 JIMTEF 災害医療研修ベーシックコース参加予定</p> <p>5. 他団体との情報交換・交流の窓口 等 日本臨床救急医学会→救急認定薬剤師 日本中毒学会→クリニカルトキシコロジスト 日本災害医学会→災害医療認定薬剤師 PhDLS インストラクター 日本集中治療医学会 さいたま救急集中災害医療薬学研究会 (代表) 鈴木 善樹</p> <p>6. 関東ブロック第54回学術大会の企画 委員会としてシンポジウムを1題申し込んでいる 採択の返事は無いが、シンポジウムが採択される可能性あり 決まり次第委員会で内容を検討する</p> <p>7. その他、ご意見等 ・12月8日(金)開催予定の研修会では、この委員会のメンバーが2次医療圏の代表であり、災害時に対応していくことを周知した方が良い ・各2次医療圏の代表としてファーマシストネットワークに登録した薬剤師に向けて情報発信を行う方針であるが、各医療圏で作るコミュニティの運営方法を共有すべき。(各医療圏での差が生じる恐れがあるため) ・12月8日(金)開催予定の研修会後は顔合わせ予定</p>
次回開催予定日 場 所	未定
文 責 者	新井成俊

第 54 回関東ブロック学術大会（2024/8/10・11）
第 1 回プログラム編集委員会議事録

開催日時	2023 年 9 月 27 日（水）18：00～20：00
開催場所	オンライン
出席者	金子智一、矢吹直寛、星野真之、田村賢士（総務）
協議事項	<p>（1）議論の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月12日に開催された関東ブロック学術大会実行委員会で各部会より提案されたシンポジウムの企画案をもとに10月3日に開催される準備委員会に向けて、より具体的な資料を作成する。 <p>（2）検討内容</p> <p>1) プログラム構成について</p> <p>提案された企画案を全て組み入れた場合、プログラム全体の統制が取れなくなると考え、調整した内容を提案することとした。</p> <p>調整の方針としては</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 類似する内容は複数の部会でコラボレーションする (高齢者や地域連携を様々な領域の演者が論ずるなど) ② 必要と考えられる領域を検討し新たにプログラムに組み入れる <p>2) 準備委員会に向けた資料作成</p> <p>先日の実行委員会で提案された企画案をもとに「シンポジウム等企画の案」と「担当部会の案」を作成し「P04の領域」などを組み入れた。「P04の領域」と比較し、これまでに提案された企画のみならず研修機会が少ないと考えられた領域を含めて幅広い内容を研修できるよう内容を検討し、表形式にまとめた。</p> <p>※日程表は担当部会のタイムスケジュールを考慮する必要があるため今後の検討事項とした。</p>
次回開催予定	未定
文責者	金子智一

第 54 回関東ブロック学術大会（2024/8/10・11）
第 3 回実行委員会 議事録

開催日時	2023 年 9 月 12 日（火） 18：30～20：00
開催場所	大宮ソニックシティビル 906 会議室
出席者	出席（集合）：町田充、濱浦睦雄、近藤正巳、新井成俊、田村賢士、伊藤典子、長谷部忠史、池上幸子、松沼篤、新井真澄、眞壁秀樹、矢吹直寛、渋谷清、中田和宏、金子智一、北畑智英、興野克典、鍵山智樹、小俣香菜、福田真人、新井亘、大澤雄一郎、須賀宏之、星野真之、佐野元彦、伊藤剛貴、相川晴彦、出川えりか、須田修輔、日比徹、矢島功、長谷川まゆみ、武田直樹、奥富秀典、中村房子、金子久代、メディセオ（石谷嘉浩、三草康雄） 欠席：多田幸子、大塚潔、北澤貴樹、牧野好倫、横田敬之、木村好伸、鈴木清志、茂木孝裕
資料	配布：シンポジウム・講演・口頭発表・ポスター等案 教育講演のテーマ案 特別講演のテーマ案 埼玉病薬謝礼・交通費規定
協議事項	○町田充会長挨拶（開会時） ○司会：新井成俊実行委員会副委員長 ○説明：近藤実行委員長、金子プログラム編集委員長 ① 会長挨拶（町田充会長） <ul style="list-style-type: none"> ・過去の本県担当の関東ブロック大会は 7 回あり、おおむね 900 人の参加であった。本当？ ・前回の本県担当の関東ブロック大会では参加者は 3600 人であった。 ・本年度の新潟県での開催では約 1800 人、集合のみの大会で総合的に収支は厳しかったようである。 ② 関東ブロック会長会議準備状況報告について（町田充会長） <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの予定を別紙で提示。 ・参加費は本年の新潟大会と同様に 8000 円としたい。 ・懇親会は鉄道博物館としたい。後程詳細について議論したい。 ・事前登録と当日参加は会費を別建てとしたい。後程詳細について議論したい。 ③ 趣意書について <ul style="list-style-type: none"> ・メディセオより案を提示あり、これをもとに議論した。 ・最初の挨拶について別案が委員の中から提示されたのでこれをもとに準備実行委員会で完成する。 ・委員名のもれがないか事務局を中心に点検する。 ・その他の項目はメディセオと準備実行委員会で点検する。 ・本大会の総費用は 7000 万円程度の見込みである。 ・共催セミナーも積極的に企画に参加（賛同）していただくよう依頼していく。

- ④ 謝金（講師料）について
- ・謝金は埼病薬規定に基づき準備実行委員会で検討する。
 - ・前回大会では座長等：本会会員なし
医師：演者 50000 円、シンポジスト 30000 円
コメディカル：一律 20000 円
- ⑤ 専門・認定単位について
- ・本大会は現地集合、ハイブリッド（集合と同時配信）、オンデマンド（集合とその後約一か月間の配信）の仕方をセッションごとに決めていく。
 - ・G15 研修受講シールはできるだけ付与する。
 - ・P04 研修受講シールはできるだけ付与する。
 - ・G01 研修受講シールは小児科領域内容を含む研修に付与できるようにする。
 - ・日病薬専門領域単位（がん・感染制御・精神科・妊婦授乳婦・HIV 感染症）はセッションを企画する担当部会が検討する。
 - ・JASPO、緩和医療薬学会等の学会単位はセッションを企画する担当部会が検討する。
- ⑥ 市民公開講座について
- 毎年 1 から 2 回開催している「県民のためのくすり講座」をあてる。薬事運営委員会が担当することとなった。
- ⑦ 特別講演・教育講演について
- ・現在提案があるものを別紙に示した。
 - ・ここで特別講演は 12 件まで絞っているがさらに 1～2 件に次回準備実行委員会で絞り込みたい。
 - ・教育講演にコアカリキュラム関連を入れることとする。
 - ・令和 6 年診療報酬改定を見据えたテーマも入れたい。
- ⑧ シンポジウムについて
- ・各部会・委員会より最終要望の傾聴をした。
 - 総合研修部会より一各部会の隙間を点検したい。
 - 地域研修部会—ジェネラリストとしてのテーマを取り入れたい。
他職種にわかる薬歴の作成、医療 DX も取り入れたい。
 - 特別対策委員会—働き方改革、医療機器・SE の運用仕方のテーマを取り入れたい。
 - がん領域部会—施設間の連携、職種間の連携で 2 枠、また AYA 世代をテーマで取り入れたい。（AYA 世代は妊婦授乳婦・小児部会との連携で 1 枠）セッションは 120 分で開催したい。
 - 感染制御領域部会—地域や院内の職種間の連携のテーマで 1 枠を確保したい。
 - 糖尿病領域部会—セッションを 1 枠確保したい。
アドボカシー活動、医師・薬剤師の立場でのディスカッションなどシンポジスト 3 人程度で行いたい。
 - 緩和医療部会—高齢者薬物療法の特徴、薬薬連携・地域連携、がんの緩和療法、非がんの緩和療法のテーマを取り入れたい。
 - 精神科療法部会—児童・思春期・高齢者にフォーカスしたテーマをとり入れたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ●妊婦授乳婦・小児科領域部会ーがん領域との連携したテーマを取り入れたい。 周産期、妊婦カウンセリング・小児在宅支援も考慮したいので2枠確保したい。 小児科領域は120分枠を確保したい。 (AYA世代は妊婦授乳婦・小児部会との連携で1枠) ●輸液・栄養管理領域部会ーシンポジスト4人で、栄養管理を若い薬剤師にもわかってもらいたい ●医療の質部会ー働き方改革、医療事故、インシデント関連で1枠確保したい ●広報委員会ー財務に注目した話題をいれたい 実習教育ー1枠確保希望 ●災害・救急委員会ー第8次医療改革の中の6事業にも注目し、1～2枠希望 ●地域連携委員会ー保険薬局との連携をテーマとしたい ●中小病院・診療所委員会ー人材確保など2枠確保したい。 ●感染対策委員会ー教育講演でコロナ感染症以後をテーマとしたい ●その他ー腎臓の領域、骨粗しょう症、リエゾン、認知症、肝臓、呼吸器・リウマチ、心不全でていない。 専門領域単位はできるだけ単独のセッション開催したい <p>⑨ 懇親会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道博物館をナイトミュージアムとして貸切る ・会費6000～8000円、定員150名。 ・ケータリング1名分16000円の見込み。 ・参加者を多くしたいので会費を検討する。 ・次回準備実行委員会で決定する。 <p>⑩ 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・趣意書の作成準備 ・さいたま市国際観光協会への補助金の申請 ・全体的なスケジュールの再考・調整 ・発表の分野・領域についての検討 ・次回、準備実行委員会を招集し審議する。
次回開催予定	10月3日 小峰ビル
文責者	近藤正巳

第 54 回関東ブロック学術大会 (2024/8/10・11)

第 4 回実行委員会 議事録

開催日時	2023 年 11 月 7 日 (火) 18:30 ~ 20:00
開催場所	大宮ソニックシティビル 906 会議室
出席者	出席 (集合) : 濱浦睦雄、近藤正巳、多田幸子、新井成俊、田村賢士、伊藤典子、大塚潔、長谷部忠史、池上幸子、松沼篤、眞壁秀樹、矢吹直寛、渋谷清、横田敬之、中田和宏、金子智一、北畑智英、木村好伸、鈴木清志、興野克典、鎌山智樹、小俣香菜、福田真人、新井亘、大澤雄一郎、須賀宏之、星野真之、相川晴彦、奥富秀典、出川えりか、須田修輔、長谷川まゆみ、武田直樹、牧野好倫、中村房子、金子久代、メディセオ (石谷嘉浩、三草康雄) 欠席 : 町田充、北澤貴樹、新井真澄、佐野元彦、伊藤剛貴、日比徹、茂木孝裕、矢島功
資料	配布 : シンポジウム・後援・口頭発表・ポスター案 第 3 回実行委員会議事録 (9/12) 第 8 回準備実行委員会議事録 (10/3) 第 9 回準備実行委員会議事録 (10/20)
協議事項	○近藤正巳実行委員長挨拶 (開会時) ○司会 : 新井成俊実行委員会副委員長 ○説明 : 近藤正巳実行委員長、金子智一プログラム編集委員長 ① 関東ブロック会長会議準備状況報告について (近藤正巳実行委員長) ・趣意書は前回で完成し各学会やメーカーなどに配布を開始している。 なお各理事には趣意書を 10 部づつ、数日中に届けるので有効にお使いください。 ・大会ポスターをアップする HP の背景について参加者に意見を伺い決定した。 ・謝金・謝礼については大枠を決定した。 (第 8 回準備実行委員会議事録参照) ・メーカー共催お願い意向調査 (締め切り 11/24) は参加公募と並行で行う。 ・講演予定者は以下の通り、予定している。 日病薬会長 武田泰雄先生 特別講演 日本医師会会長 松本吉郎先生 特別講演 日本薬剤師会会長 山本信夫先生 ② シンポジウム・後援・口頭発表・ポスター等について (金子智一プログラム編集委員会委員長) ・本日ここに現段階でのプログラムを示す。 ・シンポジウムに入りきらなかったのは一般講演に入れてある。 ・口頭発表はテーマにより分けてよいと思われる。 ・シンポジウムはできるだけ自前で受け持つ。人材確保や専門領域、精神科も取り入れる。 ・スポンサードシンポジウムは万一、メーカーが一社でできないときは数社まとまってもよい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチョンセミナーなどはメーカーごと、また領域ごとなど予算のこともあるがまずはメーカーに働きかけたい。 <p>③ 各担当で意見交換 各人が各々の仲間で話し合いを行った。</p> <p>④ 話し合い結果の発表について ※企画案一覧資料参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表毎に11/11を締め切りとして結果を事務局に提出すること。 事務局では企画案一覧に記入し、後日配布する。 ・近日中に企画書のフォーマットを委員へ提供したい。 企画書内にはタイトル・目的・プレゼン概要・日病薬の領域、会場の広さ・予算概要など記入できるようにしたい。 <p>⑤ 懇親会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総務委員会が中心で担当する。 ・鉄道博物館をナイトミュージアムとして貸切る ・会費8000円を中心に検討。定員150名。 ・ケータリング1名分16000円の見込み。 ・参加者を多くしたいので会費を検討する。 ・次回準備実行委員会で決定する。 ・施設見学をお願いする。 <p>⑥ 今後の予定</p>
次回開催予定	未定
文責者	近藤正巳

第54回関東ブロック学術大会（2024/8/10・11）

第8回準備実行委員会 議事録

開催日時	2023年10月3日（火）18：30～20：30
開催場所	小峰ビル1階会議室
出席者	事務局：町田充、近藤正巳、多田幸子、濱浦睦雄、新井成俊、金子智一、田村賢士、矢吹直寛、星野真之、中村房子、金子久代 石谷嘉浩（メディセオ）、三草康雄（メディセオ）
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・趣意書案 ・第1回プログラム委員会議事録（9/27） ・第3回実行委員会議事録 ・実行委員から提案のあった特別講演・シンポジウム、その他のテーマ、講師などのリスト。
協議事項	<p>1. 趣意書について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表紙の（案）削除 ・ご挨拶の段落を調整し、決定する。 ・大会のトップの表現は「大会長」で統一する。 ・点検終了後、メディセオで完成品を印刷500部お願いする。 ・施設からの配布用として各理事に10部配布する。 <p>2. 謝金について</p> <p><シンポジウム></p> <p>関東ブロック「内」の日病薬会員：なし 関東ブロック「外」の日病薬会員：旅費のみ 非会員：謝金2万円（医師は3万円）＋旅費＋参加費＋懇親会ご招待 ※ただし、1シンポジウムあたり謝金6万円まで。謝金＋旅費の合計10万円まで。</p> <p><会長講演、特別講演、教育講演></p> <p>日病薬会員：3万円＋旅費＋懇親会ご招待 非会員：3万円＋旅費＋参加費＋懇親会ご招待 座長：謝金なし（原則として県内の会員、日病薬関東ブロック内の会員が望ましい）</p> <p>運営スタッフ：5000円／日 税理士さんに確認し課税対象としないようにする。 その他、おきもちを考慮：3000円／人 ：演者・座長などへ</p> <p>3. 県民公開講座について</p> <p>やらないことに決定した。</p> <p>4. プログラムの検討について（資料参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部会での調整やコラボを考えるなど意見調整を行った。 ・原案を実行委員にメール送信し10月18日までに意見を求める。 ・次回会議で再度詳細に調整する。
次回開催予定	10月20日（金）18：30～ 小峰ビル1階会議室
文責者	近藤正巳

第 54 回関東ブロック学術大会 (2024/8/10・11)
第 9 回準備実行委員会 議事録

開催日時	2023 年 10 月 20 日 (金) 18:30 ~ 20:00
開催場所	小峰ビル 1 階会議室
出席者	事務局：近藤正巳、多田幸子、濱浦睦雄、新井成俊、金子智一、田村賢士、矢吹直寛、星野真之、中村房子、金子久代、石谷嘉浩 (メディセオ)
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・趣意書案 ・第 8 回準備実行委員会議事録 ・特別講演・シンポジウム等リスト (10/03 準備実行委員会) ・10/20 準備実行委員会への提言 (町田)
協議事項	<p>1. 趣意書について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会のトップの表現は「大会長」で統一。 ・日病薬と関ブロ補助金変更がある様子なので確認する。 ・趣意書については理事会で承認後、各企業等に送付して共催等の打診を行う。 ・メディセオで完成品を印刷 500 部お願いする。 <p>2. ポスターについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌 1 月号 1 ページに関ブロ学術大会ポスターを差し込む。 ・ポスターを今後開催の他学会に設置の申し込みをし、順次配送する。(直近では、日本医療薬学会年会 (仙台)、日本腎臓病薬物療法学会 (名古屋) でポスター・チラシ設置予定。幕間スライドは日本医療薬学会年会で上映依頼) <p>3 謝礼など</p> <p style="padding-left: 20px;">運営スタッフ：5000 円/日 演者・座長などへは 3000 円/人 その他謝金など次回理事会で承認を取る。</p> <p>4. 県民公開講座について</p> <p style="padding-left: 20px;">やらないことに決定した。</p> <p>5. プログラムの検討について (資料参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育講演・特別講演は理事会で再度検討する。 ・県薬とのコラボ企画は理事会で再度検討する。 ・ランチョンセミナーなどの共催セミナーについて企業への参加呼びかけ文書作成ととりまとめを田村先生、多田副会長にお願いする。 ・シンポジウム、特にコラボ企画のシンポジウム等については次回実行委員会で意見交換の場を設け調整する。とりまとめ担当金子理事。 ・今後の予定として、11/7 実行委員会 (集合)、11/14 準備実行委員会 (集合) を会場の都合がつき次第、実行委員長より連絡する。
次回開催予定	11/7 実行委員会 (集合) (ソニック 906 会議室) 11/14 準備実行委員会 (小峰ビル 1 階会議室)
文責者	近藤正巳

第 54 回関東ブロック学術大会 (2024/8/10・11)

第 10 回準備実行委員会 議事録

開催日時	2023 年 11 月 14 日 (火) 18:30 ~ 19:30
開催場所	小峰ビル 1 階会議室
出席者	事務局：町田充、近藤正巳、多田幸子、濱浦睦雄、新井成俊、金子智一、田村賢士、矢吹直寛、星野真之、中村房子、金子久代、三草康雄 (メディセオ)
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・趣意書案 ・第 4 回実行委員会議事録 ・特別講演・シンポジウム等リスト (11/7 実行委員会)
協議事項	<p>1. 趣意書について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各理事にも配布済。 ・共催セミナーについて活動を始めている。11/24 までに申し込みの受付をする。皆さんにも協力をお願いする。 ・シンポジウムあたりの費用は謝金と旅費等を含め最大 10 万円以内とする。 (医師 3 万円、その他職種 2 万円) 例外は準備委員会で承認を取ることにする。 ・各学会への依頼は各々 100 部ずつ送付する。 ・シンポジウム案本日協議する。具体的に企画書の様式を作成し配布する。企画書には G15、P04、G01 以外の各学会の単位 (日本緩和医療薬学会、JASPO、精神科学会等) も記載する事。 ・企画書について <ul style="list-style-type: none"> ① 年内に提出、概略概要示すこと ② 1 月には関係者の内諾得る事 ③ 2 月招聘状送付 ④ 4 月要旨の提出を依頼 ・関東ブロック大会のホームページについて <ul style="list-style-type: none"> ① 内容が決定していることを中心に公開する。 ② 町田会長挨拶と顔写真公開 ③ 企業の募集要項も公開する ・企画展示について <ul style="list-style-type: none"> ① ソフトウェア・機器以外の展示も検討したい ② ファーネットにも声掛けする ・懇親会について <ul style="list-style-type: none"> ① 12 月に現地見学を 4 ~ 5 人で行う。この時詳細も質問できるように準備しておく ② 厚労省仲居様など招待したい ・新年会について <ul style="list-style-type: none"> ① 11/29 15:30 新年会会場は総務委員会を中心に下見をする ② 招待客など会長を含め検討する
次回開催予定	<p>実行委員会 (未定)</p> <p>準備実行委員会 (未定)</p>
文責者	近藤正巳

埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター
第74回評価委員会議事録

開催日時	2023年9月26日(火) 18:30～19:30
開催場所	オンライン(キー局小峰ビル4階 埼玉県病院薬剤師会事務局)
出席者	町田充 内部委員:大塚潔、濱浦睦雄、日比徹、興野克典、新津京介、中村房子 外部委員:安野伸浩、野澤玲子、前田智司、堀野忠夫 事務局:金子久代 欠席:内部委員(佐野邦明) 外部委員(真野泰成、大島新司)
配布資料	1. 第73回評価委員会議事録 2. 申請に基づく認定薬剤師適否評価表(4件)
協議事項	<p>[1] 町田充埼玉県病院薬剤師会会長挨拶 2024年日本薬剤師会学術大会を埼玉県薬剤師会が担当するため、G15研修受講シールを発行したいとの申し入れがあった。そこで本会としては埼玉県病院薬剤師会生涯研修センターの名称を「埼玉県薬剤師生涯研修センター」と変更すべく薬剤師認定制度認証機構(CPC)に申請していたのがこの度認められた。実際の名称変更は本会の総会での承認後となるため2024年度からとなる。</p> <p>濱浦睦雄評価委員会委員長より出席委員の確認があった。</p> <p>[2] 申請に基づく薬剤師認定について(4件) ・事務局より説明。 認定申請を9月26日までに4名より受け付けたので審議されたい。 ・受付No635 八木裕理詠、申請30単位更新6回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付No636 塗木勇介、申請68単位更新3回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付No637 細田悠介、申請35.5単位更新2回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付No638 平重朋美、申請42単位更新2回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 上記4人について委員会として申請に基づく認定薬剤師適否判定表に沿って審議し、4名承認とした。</p> <p>[3] その他 ①大塚センター長挨拶 本日は議題が多々あるため久しぶりにほぼ全員の委員の出席となった。多くの意見を頂きたい。 ②実施要綱内の追加修正について(別紙実施要綱改正案参照) ・オンデマンド配信型研修を追加する。 第3条の研修会の形式に追記する 第4条研修受講単位の付与に追記する</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・研修実施単団体のシール申請料を一部改める 実施団体が大規模学会での研修受講シール発行に対応するためである。 ・附則に名称変更等を明記する。 <p>③ CAPEP での単位付与について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・星薬科大学寄りの提案である ・いずれにしても研修単位は日にち単位ではなく、今後はセッション単位とする。 <p>④今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯研修センター名称に伴い、センター関係としては会則・研修手帳も点検する。 ・法人対応としては定款、定款細則、組織図等に名称変更が反映するように点検する。 ・今後、10月17日（火）の3役会・理事会、11月14日（火）の評価委員会、2月6日（火）全体会、2月理事会、3月臨時総会と滞りなく進めたい。
次回開催予定	2023年11月14日（火）
文責者	大塚潔

第75回評価委員会議事録

開催日時	2023年11月21日（火）18：30～20：00
開催場所	小峰ビル4階 埼玉県病院薬剤師会事務局
出席者	<p>内部委員：大塚潔、濱浦睦雄、中村房子</p> <p>事務局：金子久代</p> <p>欠席：内部委員（日比徹、興野克典、新津京介、佐野邦明）</p> <p>外部委員（安野伸浩、野澤玲子、前田智司、堀野忠夫、真野泰成、大島新司）</p>
配布資料 協議事項	<p>1. 第74回評価委員会議事録</p> <p>2. 申請に基づく認定薬剤師適否評価表（2件） 濱浦睦雄評価委員会委員長より出席委員の確認があった。</p> <p>[1] 申請に基づく薬剤師認定について（2件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明。 認定申請を11月21日までに2名より受け付けたので審議されたい。 ・受付No639 安楽弘子、申請41.5単位新規⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付No640 神谷力嗣、申請40単位更新3回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 <p>上記2人について委員会として申請に基づく認定薬剤師適否判定表に沿って審議し、2名承認とした。</p> <p>[2] その他</p> <p>2024年度より研修センター名称を「埼玉県薬剤師生涯研修センター」として運営していく予定のため、以下の関係文書見直し作業を行った。今後はこれらの文書について次回理事会及び総会での変更承認を得たうえで、「埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター」は「埼玉県薬剤師生涯研修センター」として再スタートする予定である。</p>

	<p>見直し作業文書名 埼玉県病院薬剤師会定款細則 薬剤師研修手帳第4刷表紙 薬剤師研修手帳第4刷目次 研修認定薬剤師制度について 研修認定薬剤師制度への参加から認定・登録までの 手順 研修手帳の記入について 単位集計表 生涯研修センター会則 研修認定薬剤師制度実施要綱 書類様式1～9 ホームページについて 覚書</p> <p>④今後の予定 ・今後の1月の評価委員会、12月・2月)の3役会・理事会、2月6日(火) 全体会、3月臨時総会と滞りなく進めたい。</p>
次回開催予定	2023年1月 日(火)
文責者	大塚潔

埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター
第2回感染対策委員会 議事録
第19回感染制御研修部会 議事録

開催日時	2023年9月22日(金) 18:00～19:30
開催場所	ハイブリッド会議 大宮ソニック702会議室 + ZOOM会議
出席者	現地参加 近藤 大澤 伊賀 本石 須賀 亀田 大根 オンライン参加 熊倉 奥田 欠席: 戸塚 塩田
報告及び 検討事項	<p>【関東ブロック大会について】 感染からは2コマ実施する予定 感染制御部会→シンポジウム 感染委員会→教育講演</p> <p>1. シンポジウム 対象: 現場 (AST、ICTなどに参加している) で働く方むけ チーム医療、他職種連携をキーワードとしてディスカッション形式?などを検討 病院・薬局薬剤師との連携も考慮したいが、下記に理由で今回は病院のみにする</p> <p>薬局との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来抗菌薬認定薬剤師を取得している方に依頼するか? →制度の認識不足があるからか、取得者は少数であり難しい ・薬局との連携は他領域に比べて活動報告が乏しい ・薬局の感染症に対するニーズの把握が必要 →残り1年間で把握は難しいか <p>2. 教育講演 時間: 60～90分 単位とるなら90分程度 人数: 単位つけるなら250人程度 広めの会場 対象: 初学者向け AMRに関して、AMRって何? 基礎的な内容 抗菌薬適正使用の内容がよさそう 単位申請し参加者募る方針 さいたま自治の福地医師は教育講演のほうがよさそう</p> <p>【感染委員会の今後の活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染関連の認定者の把握 →グーグルフォームでアンケートを検討中 →誰宛に郵送し回答してもらうか? ・アンケートの内容で資格取得や維持における問題点について詳細に聞く →問題点を把握し、それに対し委員会で対策を検討していくことを検討

	<ul style="list-style-type: none"> ・メーリングリストを作り情報共有化も検討 <ul style="list-style-type: none"> →個人情報の扱いの問題やメーリングリストの管理が課題 →日病薬の登録制度をうまく使う？登録は強制ではないからどこまで普及するか ・QIについて <ul style="list-style-type: none"> →感染認定取得者数、抗菌薬使用量、TDM実施率など、数値化できるものを複数列挙 →ICT関連の内容に絞り検討 →詳細については時間をかけて検討していく
次回開催日	未定
文責者	近藤正巳

埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター
第 27 回実施小委員会－糖尿病領域専門研修部会議事録

開催日時	2023 年 11 月 29 日 (水) 17:30～18:40
開催場所	Zoom 会議
出席者	担当幹事 多田幸子 委員 木村正彦、小岩まの、瀬尾達朗、水野裕介、矢島功、日比徹
報告事項	1) 9 月 21 日に開催した臨床業務実践講座「糖尿病」 参加者 19 名 CDEJ 認定単位申請 2 名 (11 月 22 日付で承認) 2) CDEJ の単位のとれる研修会を 11 月に行うことにしていたが、日本イーライリリーからは予算の関係で、承認が得られませんでした。第二候補のノボノルディスクに打診したところ 1 月以降の承認が得られたので、「肥満糖尿病」をテーマに 2024 年 1 月末～2 月初旬に、CDEJ の認定単位の講座を行うこととした。
検討事項	1) 3 月 3 日の「県民のためのくすり講座」について ・薬剤師に 15 分程度で現場で起こるスティグマについて話し、後半医師に、スティグマがどのように起こるのか、ご講演いただこうと考えている。現在、熊谷 晋一郎 先生に打診をしている。 ・薬剤師の講演は、日本糖尿病協会常任理事の斎藤 健一先生 (埼玉医大総合医療センター) にしたい。打診することにした。 ・司会については、薬事研修委員会に一任したい。 2) 関東ブロック大会の糖尿病領域のシンポジウム 13 について ・テーマ「何気ない糖尿病スティグマについて考える」 ・日本糖尿病協会理事長・関西電力病院総長 清野 裕 先生 日本糖尿病協会・関西電力病院副院長 山田 祐一郎 先生 日本糖尿病協会・岐阜大学 教授 矢部 大介 先生 どなたかにシンポジスト、残りの二人に座長 (オーガナイザー) になっていただこうと考えているが、学会や協会の方に打診してシンポジストの紹介があれば、その限りではない。 ・シンポジストとしては、薬局薬剤師よりも (1 型) DM の医療従事者と病院薬剤師としたい。 ・日本糖尿病協会が行っているアドボカシー活動の普及に関わるので、くすりと糖尿病学会関連の斎藤 健一先生に、関東地域の病院薬剤師をご紹介いただく方向で考えたい。
次回開催日	未定
文責者	日比徹

埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター
第 39 回精神科領域委員会議事録

開催日時	2023 年 9 月 7 日 (木) 18:30 ~ 19:00
開催場所	オンライン
出席者	石川章 大久保由衣 白石桂子 須田修輔 出川えりか 山下芳江 渡邊康一
検討事項	<p>過去の総合評価 第 44 回 3.3 点 第 45 回 3.4 点 第 46 回 3.6 点 第 47 回 3.5 点</p> <p>今後の研修会でのテーマについて (過去のアンケート 太字は第 47 回より)</p> <p>1、疾患について 統合失調症、不安障害、睡眠障害、てんかん、自閉症スペクトラム 小児、高齢者、薬物依存、解離性同一性障害 せん妄の特徴またその対処法、認知症 パーキンソン病 薬疹 ヘルニア</p> <p>2、実務的な内容について 薬薬連携 クロザリル利用促進のための病院間の連携及び調剤薬局との連携 薬歴記載 フィジカルアセスメント、ポリファーマシー、臨床薬学統計 マネジメント 診療報酬 小規模病院における病棟業務実施加算の算定業務を立ち上げ 精神科薬物療法の服薬指導 実際の状況や薬剤師の役割・取り組み、精神疾患患者に対する対応方法 在宅医療における薬剤師の役割 コロナ禍の薬剤師の役割 緩和医療と薬剤師の役割</p> <p>3、薬剤について 薬の比較、小児・高齢者の薬物療法 肝不全、腎不全時の薬剤使用 中枢性抗コリン薬 錐体外路症状への対応 薬剤性嚥下障害 糖尿病患者に対する精神科薬物療法 高齢者の不安障害やうつ症状に対しての薬物療法 精神科薬物療法における適応外使用 クロザピンや LAI 急性期病棟での使い方 在宅での緩和療法 真菌薬</p> <p>4、その他 質疑応答を含んだディスカッションは勉強になった</p> <p>今後の研修会の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 48 回精神科薬物療法研修会 共催メーカー 武田薬品 2023 年 12 月 7 日 (木) 司会 須田修輔 先生 座長 石川 章 先生 講演 1 18:45 ~ 20:15 「 発達障害について (仮) 」 埼玉医科大学 松岡 孝裕 先生 ・第 49 回精神科薬物療法研修会 共催メーカー MSD 2024 年 3 月〇日 (木) 司会 須田修輔 先生 座長 <u>次回決定</u> 講演 1 18:45 ~ 20:15 「 不眠症と身体合併症について (仮) 」 講師 <u>次回決定</u> ・第 50 回精神科薬物療法研修会 共催メーカー (未定) 2024 年 6 月頃 司会 須田修輔 先生 座長 <u>次回以降決定</u> 講演 1 ~ 3 18:45 ~ 20:15 「 未定 」 講師 <u>次回以降決定</u>

	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後日本精神薬学会の単位も申請取得できるようにする。 ・ 来年度は3回開催で、1回は集合研修の方向で検討。 ・ 精神科領域の委員を増員したい。 ・ 関東ブロック学術大会での事務的な業務には、積極的に協力する。
次回開催日	年3回くらいを目安に開催（研修会の2週間後を目安に開催）
文責者	須田修輔

埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター
第36回専門研修部会（医療の質・安全部会）議事録

開催日時	2023年5月26日（金）17：30～18：10
開催場所	オンライン会議（ZOOM）
出席者	新井亘、宇田竜也、木村有揮、坂本亮、土肥大典、鈴木清志、鈴木俊、増田裕一
協議事項	<p>1. インシデントアクシデント委員会の設立について 5月16日の埼玉県病院薬剤師会（以下、本会）の理事会において、インシデント・アクシデント委員会（以下、当委員会）を設置が承認された。 組織図上は、医療の質・安全部会（当部会）とは別組織であるが、実働は当部会と併任で行う。</p> <p>当委員会の主な活動内容は下記の2点である。</p> <p>1) 当委員会ネットワークの構築 医療安全を担う病院薬剤師の方々を中心とした交流を通じて、病院薬剤師の質の向上、活動に関する知識の蓄積・普及、及び医療安全に関する意見交換や相談応需を目的とする。 ネットワークの募集方法は当部会の研修会とは別に、キックオフ的な内容を踏まえた研修会が会長において企画されている。</p> <p>2) クオリティーインディケーター（Quality Indicator: QI、以下 QI）の選出 当委員会活動や薬剤師の医療安全に対する関わりのアウトカムを示す。 医療の質安全学会において、医薬品関連 QI が2項目あり、それを活用することで、全国データと比較や検討の可能性が高まる。</p> <p>2023年度は1のネットワークの構築に注力し、多くの意見を聞きながら2024年度以降に2の QI を定める。なお、QI の収集は業務量が多く抵抗感を示す方もいるかもしれないため、サンプリングでの収集を可とする等の補足設ける。</p> <p>2. 2023年度の研修会計画</p> <p>1. 1) の通り、インシデントアクシデント委員会発足の研修会が企画されており、その後、当部会としての研修会を企画する予定。</p> <p>3. 2024年8月10・11日の関東ブロック学術大会のシンポジウムのプログラム 日本病院薬剤師会 関東ブロック 第54回学術大会における 企画募集（シンポジウム等）に、当部会からエントリーを行う。採択後に、本格的にプログラムを作成する。</p> <p>4. 埼病薬誌への寄稿の順番 Vol.30 No.1 木村有揮 Vol.30 No.2 伊藤典子 ここで一巡完了しており、以降は土肥先生から50音順とする。</p>

	Vol. 30 No. 3 土肥大典 Vol. 31 No. 1 鈴木清志 Vol. 31 No. 2 鈴木俊 Vol. 31 No. 3 増田裕一 Vol. 32 No. 1 渡邊幸子 Vol. 32 No. 2 新井亘 Vol. 33 No. 3 伊藤典子 Vol. 34 No. 1 宇田竜也 Vol. 34 No. 2 木村有揮 Vol. 34 No. 3 坂本亮 寄稿に対して、当部会の確認を得る手順を設ける。 ・投稿締め切りの10日前までに、寄稿者が部会のメーリングリストに案を送信する。 ・送信日を含め5日間の間に部会員が確認し、必要に応じて助言する。助言が無ければ承認。 ・助言があれば必要に応じて修正し、寄稿者が提出する。（修正後の部会への提示は不要）
次回開催予定	未定（インシデントアクシデント委員会のキックオフ的な内容を踏まえた研修会の1カ月前頃）
文責者	新井亘

第37回専門研修部会（医療の質・安全部会）議事録

開催日時	2023年7月20日（木）19：00～20：10
開催場所	小峯ビル1階
出席者	新井亘、伊藤典子、宇田竜也、土肥大典、渡邊幸子
協議事項	1. 2023年度の当部会の研修会計画（案） ・研修会形式は今年度も引き続き、SGDや実技を伴う研修は集合形式。講義はオンライン形式でハイブリットは不可とのこと。 ・コロナ前に計画していたが延期になった研修会を、オンラインで開催する予定。 演者の候補（案）：京都大学医学部附属病院 医療安全管理部教授 医療の質・安全学会監事 松村由美 先生 ・オンライン（Microsoft Teams）の人数は概ね大丈夫とのこと。 ・講師料は製薬会社の共催を得たいところだが、共催しない場合は外部の方であれば3～5万円を支払う。 ・メイン会場は上尾中央総合病院会議室に設ける。当部会員はメイン会場に集合することも可能。 2. 2024年8月10・11日の関東ブロック学術大会のシンポジウム・教育講演のプログラム（案）

- ・正式に当部会が担当するシンポジウムが依頼された訳では無いが、方向性を定める。
- ・当部会、ならびにインシデント委員会が企画するシンポジウム・教育講演の案は下記の通り。

2. 1 医療の質・安全部会の企画

1) パネルディスカッション

タイトル：薬剤師が関わるタスクシフト、タスクシェアと非薬剤師の積極的な活動（仮）

オーガナイザー：渡邊幸子、新井亘（予定）

主旨：医師の働き方改革に伴うタスクシフト，タスクシェアにおいて薬剤師については、事前に取り決めたプロトコルに沿って行う処方された薬剤の投与量の変更、薬物療法に関する説明、医師への処方提案等の処方支援等の業務が現行制度の下で可能な業務と示されている。また、薬剤師の業務のタスクシフトにおいて、非薬剤師ができる業務が明確化されている。

今回、医師等から薬剤師へのタスクシフトの実例や（中～大病院から1演題）、薬剤師から非薬剤師へのタスクシフトの事例（大病院、中病院から2演題）を紹介し、組織的な体制の整備や、人材の育成方法等を含めて紹介する。

一方、両者において、従来はグレーゾーンとされてきた業務範囲が明確になったところではあるが、解釈によって法に触れている可能性があること知らずに実施していることが懸念されている。そこで、弁護士からの見解も交えてディスカッションする機会としたい。

事前に、各病院において業務の悩み等を収集し当日回答する等、多くの病院薬剤師にとって日常業務の改善と向上に参考となるディスカッションを計画する。

2) 教育講演

タイトル：未定

座長：未定（医療の質・安全部会員）

演者：医療安全の領域において御高名な先生をお招きすることが可能。

主旨：演者と当部会、学会準備委員会との意向に合わせて相談。

2. 2 インシデント委員会の企画

1) パネルディスカッション

タイトル：患者安全推進のために薬剤師に求められるノンテクニカルスキルとは
オーガナイザー：渡邊幸子、新井亘

主旨：日本医療機能評価機構の年報によると薬剤事故は全体の41.4%を占めており、更に発生要因をみると「知識不足」「技術・手技が未熟」といったテクニカルスキルによるものは少なく、「確認を怠った」「観察を怠った」「連携ができていなかった」などといった、いわゆるノンテクニカルスキルに起因するものが上位を占めていることがわかる。

薬剤事故を防止するには、専門職である薬剤師のテクニカルスキルを向上させることが不可欠であるが、実際には専門技能を高める教育に比べ、ノンテクニカルスキル向上にむけた教育は十分とは言えず、コミュニケーションが苦手な多職種との連携が図れない薬剤師がいることも事実である。これからの患者安全推進の

ために医師、薬剤師、看護師、ノンテクエバンジェリストの資格をもつ理学療法士を交えた多職種で薬剤師に求められるノンテクニカルスキルとは何かを考える機会としたい。

3. インシデント委員会について

- ・委員会設立のキックオフとして、2023年10月19日（木）にオンラインにてインシデントを考える会を開催する。
- ・医療安全に関わる活動状況（研修受講歴・安全に関わる勤務実態・日病薬の病院薬剤部門の現状調査の項目等）を調査し、その延長で、当委員会ネットワークへの登録を呼び掛ける。
- ・案内文の原案は下記の通り。

案内文原案 ここから

埼玉病薬医療安全ネットワークの発足とメンバーの募集と医療安全担当薬剤師の現状把握に関するアンケートのお願い

1. 背景

医療安全を担う病院薬剤師からの「医療安全のネットワークを作って欲しい」との要望を受け、埼玉県病院薬剤師会（以下、本会）は、インシデント委員会（以下、当委員会）を設置し、埼玉病薬医療安全ネットワークを構築いたしました。

2. 当委員会ネットワークについて

医療安全や医療の質に関するネットワークを築き、日々の業務や医療安全に関する課題や問題を情報交換・共有し、埼玉県全体の医療の質と安全を向上させることです。医療安全を担う病院薬剤師の方々を中心とした交流を通じて、病院薬剤師の質の向上、活動に関する知識の蓄積・普及、および医療安全に関する意見交換・集約を行うことを目的とします。

ネットワークに登録していただけますと下記のようなメリットがあります。

- ・メーリングリストによる情報共有
- ・当委員会への相談

ネットワークへの登録をお願い致します。

当委員会ネットワークへ登録された方へのお願い

- ・当委員会への相談に対して、メール等でご意見をいただくことがありますのでご承知おきください。
- ・医療の質安全部会が主催する研修会に積極的に参加し、顔の見える関係を築きましょう。

4. 医療安全担当薬剤師の現状把握

5分程度で入力できるフォームを作成しました。2023年11月30日までの回答にご協力ください。

	<p>5. 本件に関するお問い合わせ 埼玉県病院薬剤師会担当理事 上尾中央総合病院薬剤部 新井 亘 E-Mail: arai.w@ach.or.jp 電話番号 :048-773-1111 (代表) 内線 8601</p> <p style="text-align: center;">***案内文原案 ここまで***</p> <p>・当委員会のネットワークを用いて、タスクシフトに関しては関東ブロック学術大会にて回答し、それ以外に関しては、埼病薬誌の「安全の広場」において回答することも検討中。</p>
次回開催予定	来年度の関東ブロック学術大会の詳細が決定した頃 小峰ビル 18:30 ~ あるいは、今年度の当部会の研修会日程が確定した頃 オンライン
文責者	新井亘

第 38 回専門研修部会（医療の質・安全部会）議事録

開催日時	2023年11月15日（水）18：30～19：30
開催場所	上尾中央総合病院B館8階会議室6＋7、オンライン
出席者	<p>集合：新井亘 伊藤典子 増田裕一 渡邊幸子 オンライン：木村有揮 土肥大典 鈴木清志 鈴木俊久 （欠席：坂本亮 宇田竜也）</p>
協議事項	<p>1. 第14回 医療の質・安全研修会 について</p> <p>講演1（18：30～18：45）：上尾中央総合病院薬剤部 諸橋賢人 先生 講演2（18：45～20：00）：京都大学医学部附属病院 医療安全管理部教授 医療の質・安全学会監事 松村由美 先生</p> <p>形式：オンライン 配信会場：エーザイ社が準備 大宮駅西口 開催候補日：2024年2月15日（木）</p> <p>講演1の座長：新井亘（当部会員からローテーション） 講演2の座長：渡邊幸子先生</p> <p>2. 2024年度の関東ブロック学術大会 2024年8月10・11日開催 第54回関東ブロック学術大会第4回実行委員会開催が開催され、当部会、ならびにインシデント・アクシデント委員会が企画するシンポジウム・教育講演は下記の通りで確定した。</p> <p>1) シンポジウム 医療の質・安全部会と特別対策委員会の担当 タイトル：薬剤師が関わるタスクシフト、タスクシェアと非薬剤師の積極的な活動（仮） 座長：新井亘・特別対策委員会から選出</p>

開催希望日：8月10日（土）弁護士の演者より指定

P04 単位：Ⅱ-5 120分

予算：医師以外1名（謝金20,000円＋交通費約2,000円＝22,000円）

主旨：医師の働き方改革に伴うタスクシフト、タスクシェアにおいて薬剤師については、事前に取り決めたプロトコルに沿って行う処方された薬剤の投与量の変更、薬物療法に関する説明、医師への処方提案等の処方支援等の業務が現行制度の下で可能な業務と示されている。また、薬剤師の業務のタスクシフトにおいて、非薬剤師ができる業務が明確化されている。

今回、医師等から薬剤師へのタスクシフトの実例や（中～大病院から1演題）、薬剤師から非薬剤師へのタスクシフトの事例（大病院、中病院から2演題）を紹介し、組織的な体制の整備や、人材の育成方法等を含めて紹介する。

一方、両者において、従来はグレーゾーンとされてきた業務範囲が明確になったところではあるが、解釈によって法に触れている可能性があること知らずに実施していることが懸念されている。そこで、弁護士からの見解も交えてディスカッションする機会としたい。

事前に、各病院において業務の悩み等を収集し当日回答する等、多くの病院薬剤師にとって日常業務の改善と向上に参考となるディスカッションを計画する。

安全が担保できるタスクシフト・シェア・PBPMについて以下の3点について考え、ディスカッションを行なう。

要約：

1. 医師から薬剤師へのタスクシフト、PBPMの運用

演者：検討中

2. 薬剤師から非薬剤師へのタスクシフトの実例

演者1：検討中

演者2：検討中

配薬カートの設定・持参薬鑑別・注射セットの取り揃えと一時セット・外来抗がん剤を病棟に届ける・散剤分包、半錠セット、注射混注前のバーコード読み取り等の紹介になるか。

タスクシフトするための教育プログラム・テクニシャン養成講座の紹介もあり。タスクシフトに関する悩みや疑問、非薬剤師を採用しているか、非薬剤師がおこなっている業務をインシデント・アクシデントネットワークに募る。その中から必要性が高い内容を紹介して頂く。

アンケートフォームは下記の通り。

<https://ws.formzu.net/fgen/S79287866/>

3. 特に薬剤師から非薬剤師へのタスクシフトを行なうときの法的な問題・課題について

演者：赤羽根秀宜 先生（弁護士） 承諾済

自由にディスカッションしていただくため、録画・録音をしないライブのみとするか、実行委員会へ確認する。

2) シンポジウム 医療の質・安全部会の担当

タイトル：患者安全推進のために薬剤師に求められるノンテクニカルスキルとは
座長：渡邊幸子、新井亘

開催希望日：8月11日（日）

P04 単位：Ⅱ-5 Ⅲ-1 120分

予算：医師（謝金 30,000 円＋交通費約 2,000 円＝ 32,000 円）

看護師（謝金 20,000 円＋交通費約 2,000 円＝ 22,000 円）

???（謝金 20,000 円＋交通費約 2,000 円＝ 22,000 円）計 76,000 円

関東地域から選出しないと予算を超える可能性がある。

主旨：日本医療機能評価機構の年報によると薬剤事故は全体の 41.4% を占めており、更に発生要因をみると「知識不足」「技術・手技が未熟」といったテクニカルスキルによるものは少なく、「確認を怠った」「観察を怠った」「連携ができていなかった」などといった、いわゆるノンテクニカルスキルに起因するものが上位を占めていることがわかる。

薬剤事故を防止するには、専門職である薬剤師のテクニカルスキルを向上させることが不可欠であるが、実際には専門技能を高める教育に比べ、ノンテクニカルスキル向上にむけた教育は十分とは言えず、コミュニケーションが苦手な多職種との連携が図れない薬剤師がいることも事実である。これからの患者安全推進のために医師、薬剤師、看護師、ノンテクニカルスキルの資格をもつ理学療法士を交えた多職種で薬剤師に求められるノンテクニカルスキルとは何かを考える機会としたい。

医師、薬剤師、看護師、ノンテクニカルスキルの資格をもつ理学療法士

3) 教育講演 インシデント・アクシデント委員会の担当

タイトル：未定

座長：渡邊幸子 先生

演者：静岡英和学院大学短期大学部現代コミュニケーション学科教授 重森雅嘉先生

開催希望日：8月10日（土） 演者より年内には決定して頂きたいとのこと。

P04 単位：Ⅱ-5 Ⅳ-1 90分

予算：医師以外 1 名（謝金 20,000 円＋交通費約 18,000 円＋宿泊費 20,000 円＝ 68,000 円）

主旨：認知心理学、ヒューマンエラーがご専門、失敗が起こるメカニズム、思考の過程から説明して頂ける。多職種の学会では著名の先生。

4) 講師料

関東地区の病院薬剤師会会員：なし（座長・演者には 3,000 円 / 人のクオカード）

関東地区以外の病院薬剤師会会員：交通費のみ（座長・演者には 3,000 円 / 人のクオカード）

医師：30,000 円、交通費、参加費、懇親会へ招待

医師以外：20,000 円、交通費、参加費、懇親会へ招待

	<p>1 シンポジウム当たりの謝金は60,000円まで、謝金と交通費、宿泊費込みで100,000円まで。</p> <p>3. インシデント・アクシデント委員会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当部会員を除き23名のエントリーがあった。締め切りは11月末。 ・12月にメーリングリストに追加し、意見を頂き方向性を検討する。
次回開催予定	第14回 医療の質・安全研修会後 オンライン
文責者	新井亘

●●●●●●●●●●
事務局だより
●●●●●●●●●●

第 41 回 関東ブロック第 54 回学術大会の準備は大盛り上がり

春になり新年度が始まったと思っていたらもう 5 月。しかも夏のような強い日差しが降り注ぐ日々が続いています。そしていよいよ埼玉で開催される 10 年に一度の大イベント、関東ブロックが 3 か月後の 8 月と近づいてきました。

先日、関東ブロックの参加登録や演題申込みを確認してみました。

一般演題の応募総数は 418 演題、うち口頭発表希望 34 演題、ポスター発表希望 384 演題、事前参加申し込み 579 名、うち現地参加希望 539 名、オンデマンド参加希望 40 名、そしてこれとは別に懇親会参加希望 71 名。

まずはびっくりするやら、ほっとするやら、、、。なぜなら、この学術大会は少し前の関ブロ大会のデータが参考にならず、ましてコロナ感染症が完全に収束しているわけではないので今回は本当に心配していたのです。

また指定演題として特別講演・教育講演・シンポジウム・スポンサードシンポジウム・ランチオンセミナーなどの準備も整いつつあります。

ちなみに特別講演は、日本病院薬剤師会の武田泰生会長の講演から始まり、二日目には日本医師会長の松本吉郎先生の登壇もお願いしています。それ以外にも医療安全の特別講演があります。また、教育講演は、医療倫理、褥瘡、感染、臨床研究、そして薬学教育とさまざまな分野から構成しています。シンポジウムも数多くあり、薬剤師外来や薬剤師確保、診療報酬改定と昨今の気になる事項が企画されています。

鉄道の街“大宮”で、大いに盛り上がりましょう！懇親会は、鉄道博物館ですから！汽笛を聞きながら♪。対話をしよう！

ということで準備委員会、準備実行委員会に約 100 名の会員の方々にご参加いただき、それぞれ準備委員会は 4 回、準備実行委員会はこの 5 月で 15 回開催しております。

今後は更に全体のスケジュールなどを発表して参りますので皆様、引き続きご注目と応援をよろしくお願いいたします。

(記 中村)

認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ予約登録について

『ワークショップ受講希望の方へのお知らせ』（H 28. 4. 1 HP掲載）に基づいて希望者の予約登録を受け付けます。

講習詳細が決まりましたら予約登録している方々に申し込み順でTEL またはメールにてご都合伺いを差し上げます。

申し込み前の確認事項：申し込み時、本会の会員であること。

現在所属施設に認定実務実習指導薬剤師が不在のため、

平成 29 年度からの実務実習が行えないこと。

申し込み時実務経験 5 年以上

申込方法：埼玉病薬ホームページより下記フォーマットをダウンロードしてFAX またはメールでお申し込みください。

登録申込先：E-Mail jimukyoku@saibyoyaku.or.jp

(一社) 埼玉県病院薬剤師会 事務局 TEL:048-829-7698 FAX:048-829-7952

〒 330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-12-24 小峰ビル 401

(一社) 埼玉県病院薬剤師会
実習教育委員会

実務実習指導薬剤師養成講習会予約登録票

申込年月日	令和 年 月 日
参加希望者 (必要事項を記入 または 選択して丸で囲む)	氏名 (ふりがな) 性別 生年月日 メールアドレス (PC) (ない場合は住所を記載) 携帯番号 座学聴講状況 受講済 受講未 実務経験年数 (本紙提出時) 年 所属施設での職位 部長 主任 係長 その他
所属施設情報	施設名 (病床数) 住所 〒 TEL FAX 薬剤部門メールアドレス 薬剤部門長氏名
院内の実務実習指導薬剤師数	名
過去の実習生受け入れ状況	() 年 (なるべく最新情報で記入のこと) 1期 (名) 2期 (名) 3期 (名)

ただし、予約可能人数には限りがありますのでご了承ください

(キリトリ線)

会員届出用紙

入会異動年月日西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日

一般社団法人埼玉県病院薬剤師会会長殿

下記の通り届出致します。

届出者氏名 _____

届出事項	届出事項 (○で囲んでください)	
	・入会 ・退会 ・変更 ⇒ ・改名 (旧氏名欄に記入のこと) ・住所 ・勤務先 (旧勤務先欄に記入のこと) ・会員区分 (旧区分 A B C D ⇒新区分 A B C D)	
全て記入して下さい	フリガナ	性別
	氏名	男 女
	生年月日	会員区分 (○で囲んでください)
	西暦 年 月 日生	A B C D
	自宅住所 〒	
	電話番号	
	薬剤師名簿登録番号	日病薬会員No
	第 号	
最終学歴		
大学・大学院名		
卒業・修了年 (修士 博士) 西暦	年卒	
勤務先		
施設名	(床)	
住所 〒		
電話	FAX	
旧氏名	旧勤務先 施設名	

* 記入上の注意：

- 1) 異動があった場合は、速やかに事務局にFAX、郵送、E-mail添付で提出して下さい。
- 2) 会員区分 (一般社団法人埼玉県病院薬剤師会定款第3章参照)
 - A 正会員で日本病院薬剤師会+埼玉県病院薬剤師会に入会の方
 - B 正会員で埼玉県病院薬剤師会に入会の方
 - C 正会員以外で日本病院薬剤師会+埼玉県病院薬剤師会に入会の方
 - D 正会員以外で埼玉県病院薬剤師会に入会の方

* その他の注意

- 1) 入会は理事会の承認のうえ決定する。
- 2) 届け出内容は会員名簿、会誌に掲載する。
- 3) 会費が期限内に納入されない時、処分対象となる場合がある。
- 4) 一旦納入された会費は返還されない。

* 一般社団法人埼玉県病院薬剤師会 事務局

TEL 048-829-7698 FAX 048-829-7952 E-mail jimukyoku@saibyoyaku.or.jp

原 稿 募 集

時下 会員の皆様においては益々ご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。常日頃より埼玉県病院薬剤師会の活動にご理解、ご協力いただきまして心より感謝申し上げます。おかげさまで広報誌の「埼玉病薬」は号を重ねるにつれ、会誌の内容が充実してまいりました。会員の皆様には引き続きご協力をいただき、広報誌の内容を一層充実させるため多くのご投稿をお願い致します。

掲載内容について

<会員のひろば>

特にテーマは設けておりません。日常業務での新しい発見や業務上工夫している内容、学会や研修会に参加した感想・報告、そのほか個人の趣味など仕事に関係あるなしに係らず原稿を募集しています。

<学会報告>

学会、後援会で使用したスライド、ポスター、要旨、発表原稿、論文などを募集しています。

<薬局業務紹介>

薬局内の業務で、特に他の施設へ紹介したい自慢できる業務内容や、新しく始めている取組みなどについて原稿を募集しています。薬局全体の紹介ではなく、特定の業務や取組みについて紹介をお願い致します。

それぞれの原稿には写真や図表は自由に入れていただけます。ユニークな原稿の投稿をお待ちしております。

原 稿 規 定

執 筆 者 : 会員の皆様どなたでも

原稿レイアウト : 【原稿用紙】 A4判、45字×40行
(タイトル含む)を原則とする
【タイトル文字】 12Pt MS ゴシック
【本文】 10.5Pt MS 明朝
【余白】 上下 20mm 左右 22.5mm

締 切 日 : ● 2024年7月31日
発行予定 : 2024年9月
(Vol.31 No.3 2024)

編 集 後 記

いよいよ「日本病院薬剤師会 関東ブロック第54回学術大会 in Saitama」の開催が近づいてまいりました。多くの会員皆様からの演題登録をお待ちしております。今回の広報誌「埼玉病薬」では、大会のポスター、及び大会の概要を掲載いたしました。是非とも、力を合わせてこの大会を成功させましょう。

K. S.

埼 玉 病 薬

Vol. 31 No. 2 令和6年5月

発行者 一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会

会 長 町 田 充

住 所 〒330-0063

さいたま市浦和区高砂 3-12-24

小峰ビル401

TEL 048-829-7698

FAX 048-829-7952

E-Mail jimukyoku@saihyoyaku.or.jp

印 刷 株式会社 サンアロー

住 所 〒334-0005 川口市里1191-245

